

福島12市町村の将来像に関するアンケート調査結果 参考資料

平成27年6月

調査結果の概要

調査目的

福島12市町村の将来を見据え、住民の皆様が望まれる復興のあり方を伺い、将来像の検討の参考とする。

調査方法

◆ 調査対象

(1) 調査票1

平成23年3月11日時点で福島県内の12市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）に居住していた世帯の、調査時点で高校1年生相当の年齢以上の個人。（平成26年度に満16歳以上の個人であり、現在15歳で平成26年度中に誕生日を迎えた方も対象。）

(2) 調査票2

平成23年3月11日時点で福島県内の12市町村に居住していた世帯の、現在小学4年生から中学3年生までの個人。

◆ 調査票配布数

12,931世帯（調査票1：51,724部、調査票2：25,862部、計77,586部）

◆ 有効回答数

5,137（調査票1：4,662、調査票2：475）

◆ 標本抽出方法

無作為抽出（対象世帯77,554から1/6の割合で抽出）

◆ 調査期間

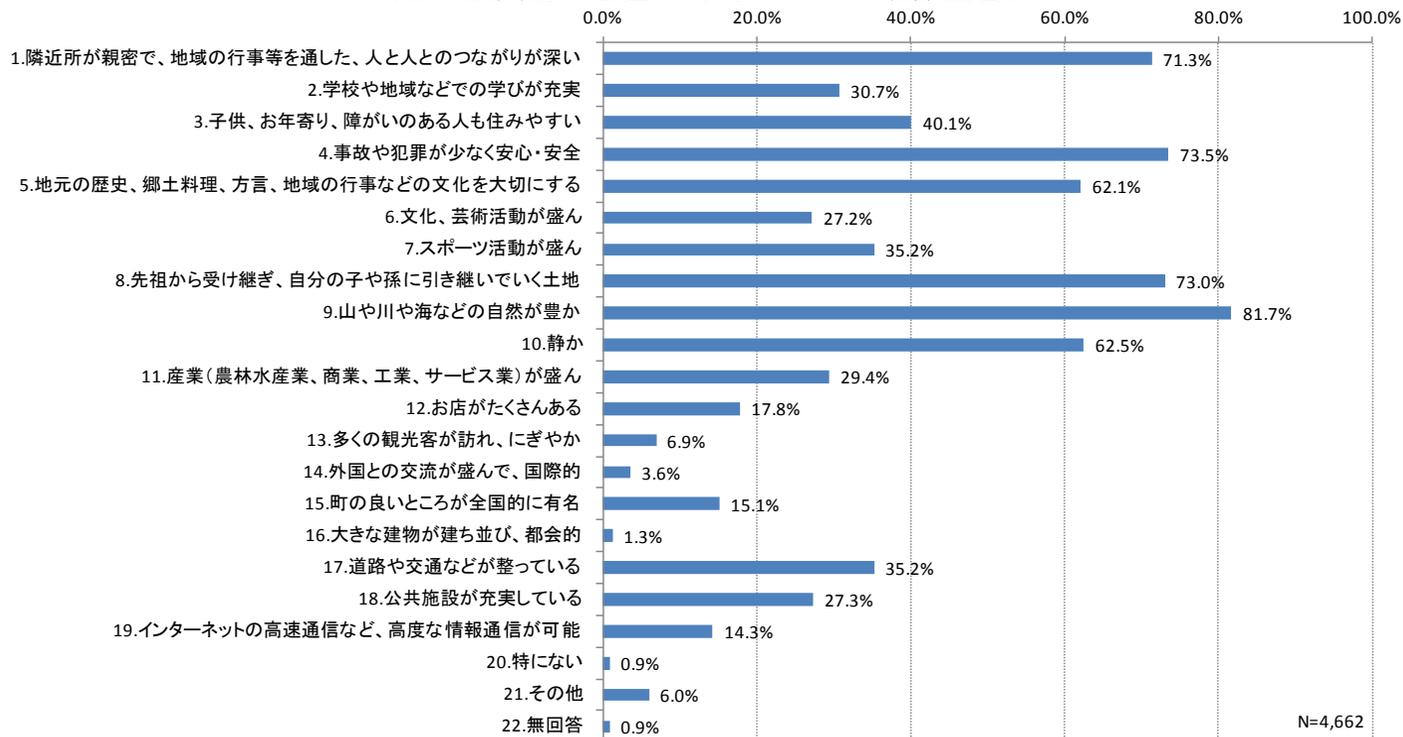
平成27年2月～3月

集計結果

問1 以下1～21のうち、震災前にお住まいだった市町村に当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合		回収数	割合
調査数	4,662	100.0	12	828	17.8
1 隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人とのつながりが深い	3,323	71.3	13	324	6.9
2 学校や地域などでの学びが充実	1,430	30.7	14	166	3.6
3 子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい	1,871	40.1	15	704	15.1
4 事故や犯罪が少なく安心・安全	3,426	73.5	16	61	1.3
5 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にす	2,897	62.1	17	1,641	35.2
6 文化、芸術活動が盛ん	1,266	27.2	18	1,272	27.3
7 スポーツ活動が盛ん	1,642	35.2	19	666	14.3
8 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地	3,401	73.0	20	41	0.9
9 山や川や海などの自然が豊か	3,811	81.7	21	282	6.0
10 静か	2,916	62.5	22	44	0.9
11 産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん	1,372	29.4			

問1：震災前の居住市町村について(複数回答)

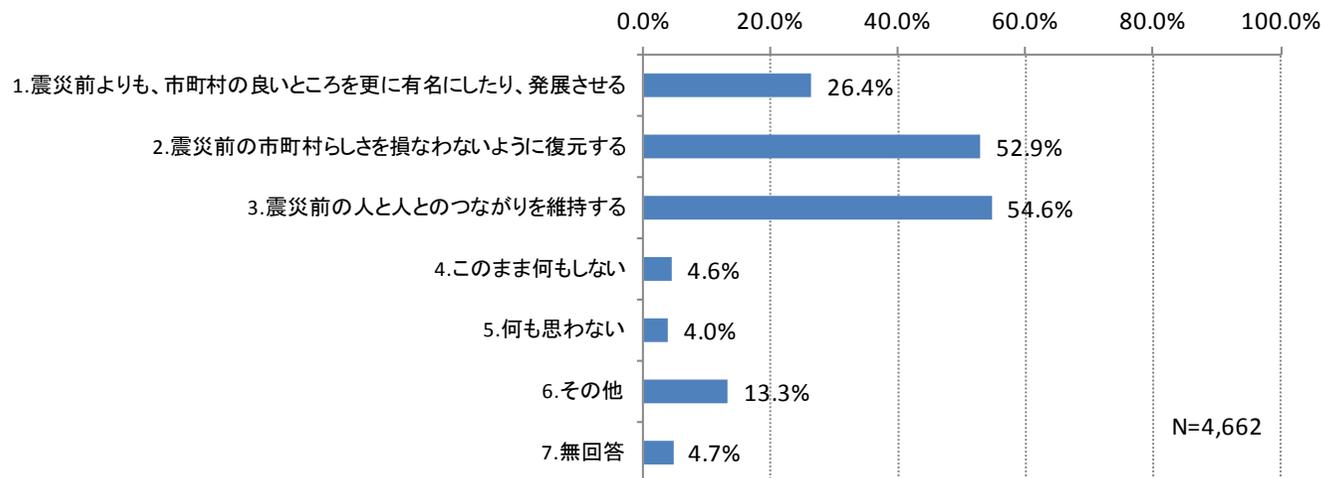


調査票 1

問2 あなたとしては震災前にお住まいだった市町村を今後どうしていくと良いと思いますか。
1～6のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 震災前よりも、市町村の良いところを更に有名にしたり、発展させる	1232	26.4
2 震災前の市町村らしさを損なわないように復元する	2467	52.9
3 震災前の人と人とのつながりを維持する	2547	54.6
4 このまま何もしない	213	4.6
5 何も思わない	185	4.0
6 その他	618	13.3
7 無回答	220	4.7

問2：震災前の居住市町村の今後について(複数回答)



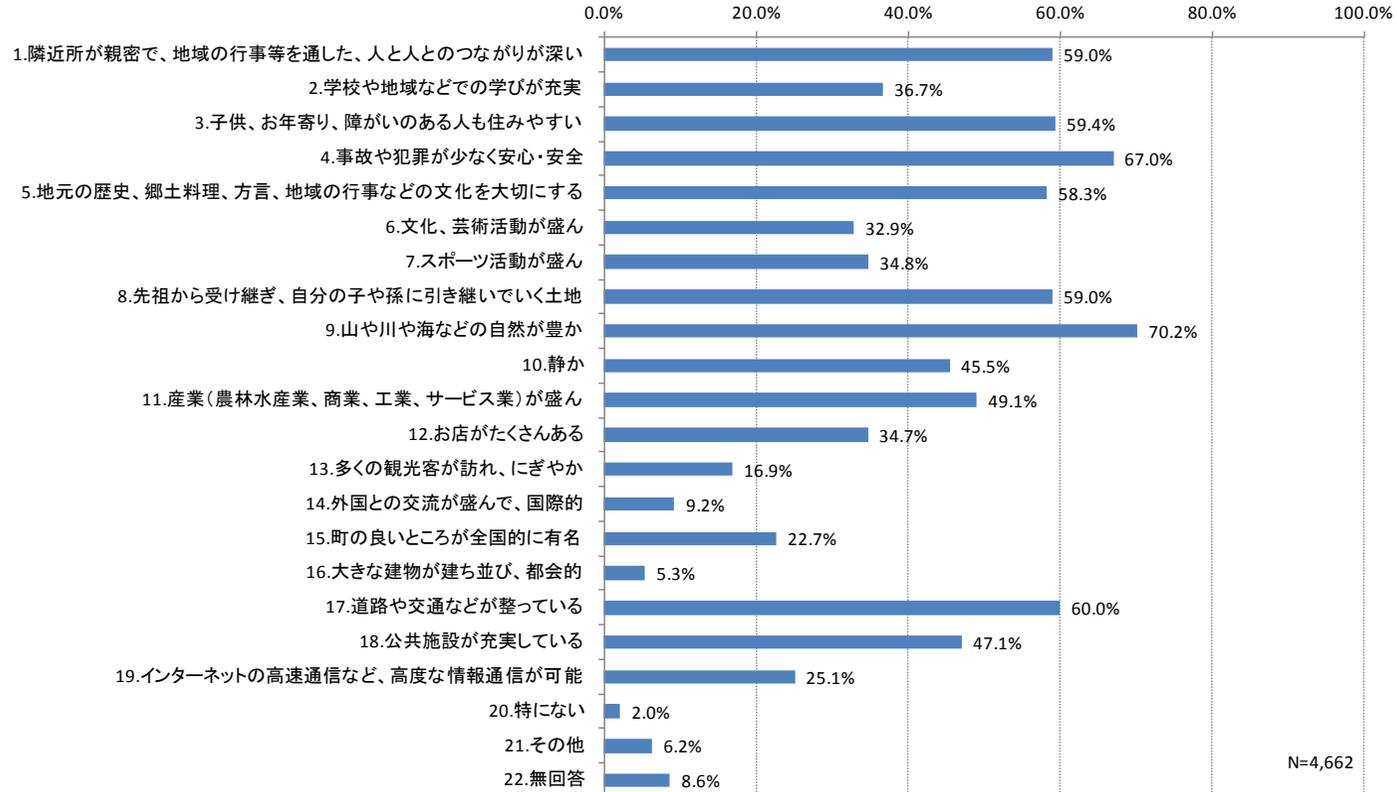
調査票 1

問3 以下1～21のうち、震災前にお住まいだった市町村が
将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人とのつながりが深い	2749	59.0
2 学校や地域などでの学びが充実	1712	36.7
3 子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい	2771	59.4
4 事故や犯罪が少なく安心・安全	3125	67.0
5 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にす	2717	58.3
6 文化、芸術活動が盛ん	1536	32.9
7 スポーツ活動が盛ん	1624	34.8
8 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地	2749	59.0
9 山や川や海などの自然が豊か	3273	70.2
10 静か	2122	45.5
11 産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん	2289	49.1

	回収数	割合
12 お店がたくさんある	1617	34.7
13 多くの観光客が訪れ、にぎやか	787	16.9
14 外国との交流が盛んで、国際的	430	9.2
15 町の良いところが全国的に有名	1057	22.7
16 大きな建物が建ち並び、都会的	247	5.3
17 道路や交通などが整っている	2797	60.0
18 公共施設が充実している	2196	47.1
19 インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能	1171	25.1
20 特にな	95	2.0
21 その他	289	6.2
22 無回答	399	8.6

問3:震災前の居住市町村の希望将来像(複数回答)

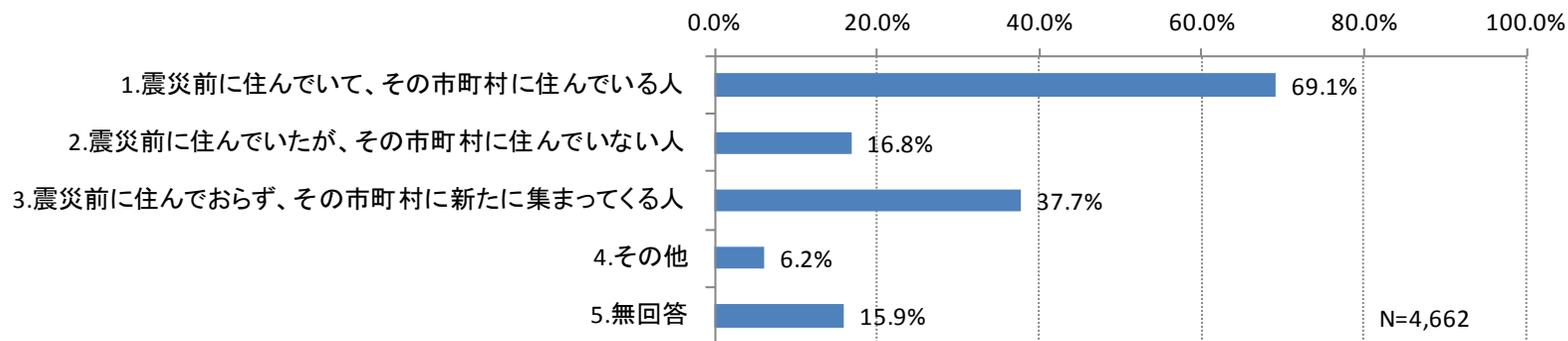


調査票 1

問4 以下1～4のうち、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために
 貢献する人に当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 震災前に住んでいて、その市町村に住んでいる人	3222	69.1
2 震災前に住んでいたが、その市町村に住んでいない人	782	16.8
3 震災前に住んでおらず、その市町村に新たに集まってくる人	1756	37.7
4 その他	290	6.2
5 無回答	742	15.9

問4:震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する人(複数回答)

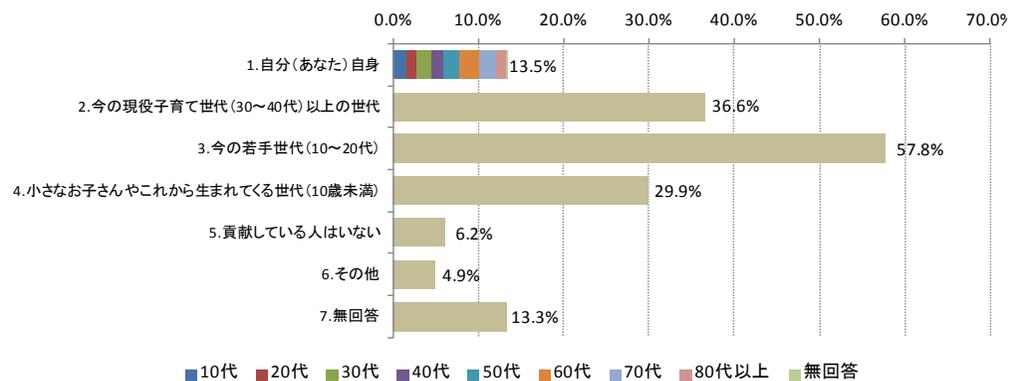


調査票 1

問5 以下1～6のうち、30～40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

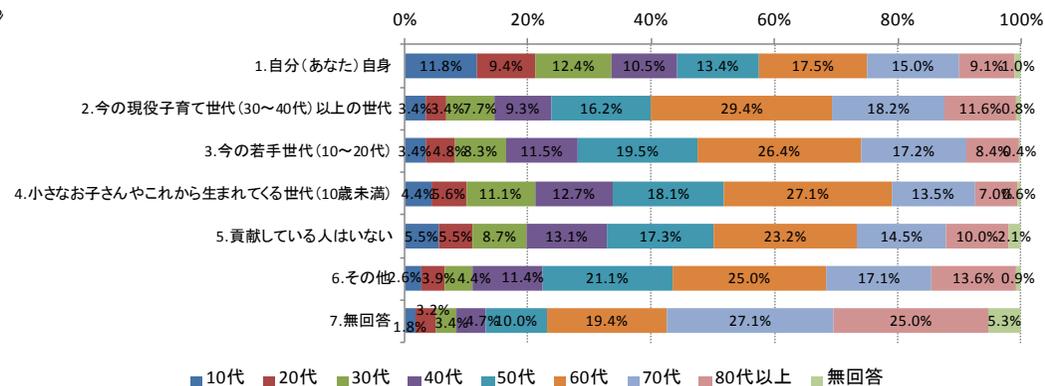
	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 自分(あなた)自身	628	13.5
2 今の現役子育て世代(30～40代)以上の世代	1706	36.6
3 今の若手世代(10～20代)	2694	57.8
4 小さなお子さんやこれから生まれてくる世代(10歳未満)	1394	29.9
5 貢献している人はいない	289	6.2
6 その他	228	4.9
7 無回答	619	13.3

問5:30～40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代(複数回答)



※図表6の凡例は、「自分(あなた)自身」のみに適用されています。

(参考図表)各項目の年齢構成比

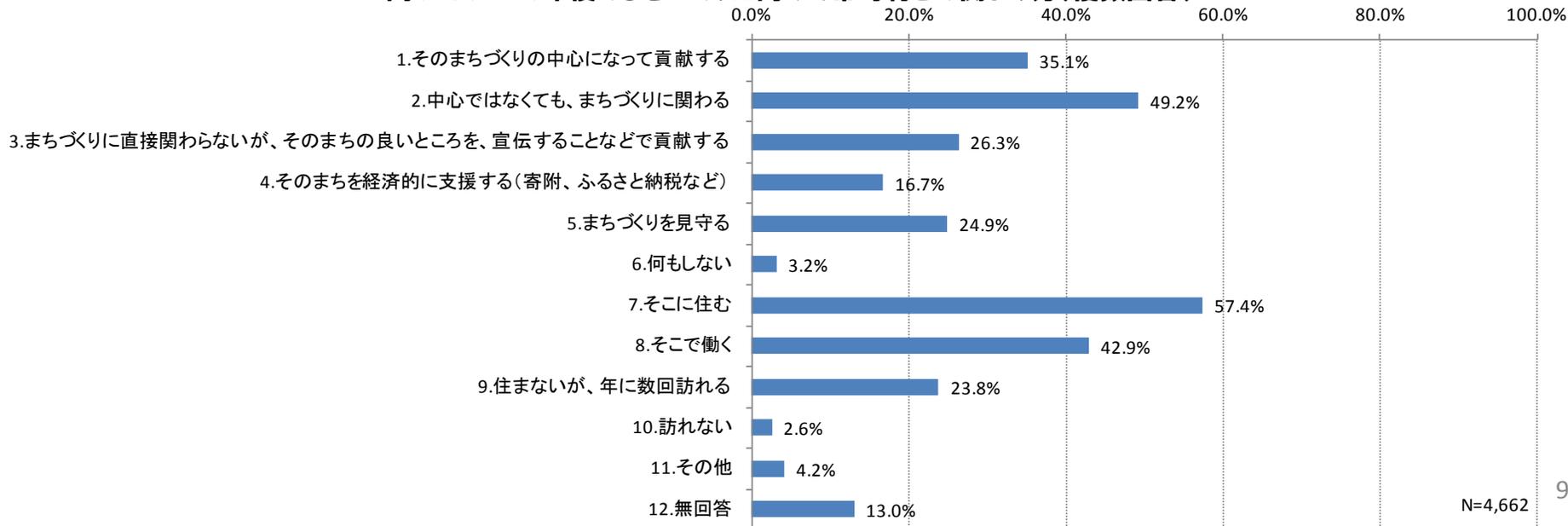


調査票 1

問6 30～40年後のまちづくりに向けて、[問5でお答えいただいた世代]は、震災前にお住まいだった市町村にどのように関わるのがよいですか。
以下1～11のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

		回収数	割合
	調査数	4662	100.0
1	そのまちづくりの中心になって貢献する	1635	35.1
2	中心ではなくても、まちづくりに関わる	2294	49.2
3	まちづくりに直接関わらないが、そのまちの良いところを、宣伝することなどで貢献する	1225	26.3
4	そのまちを経済的に支援する(寄附、ふるさと納税など)	778	16.7
5	まちづくりを見守る	1162	24.9
6	何もしない	151	3.2
7	そこに住む	2678	57.4
8	そこで働く	2002	42.9
9	住まないが、年に数回訪れる	1109	23.8
10	訪れない	121	2.6
11	その他	195	4.2
12	無回答	606	13.0

問6:30～40年後のまちづくりに向けて市町村との関わり方(複数回答)

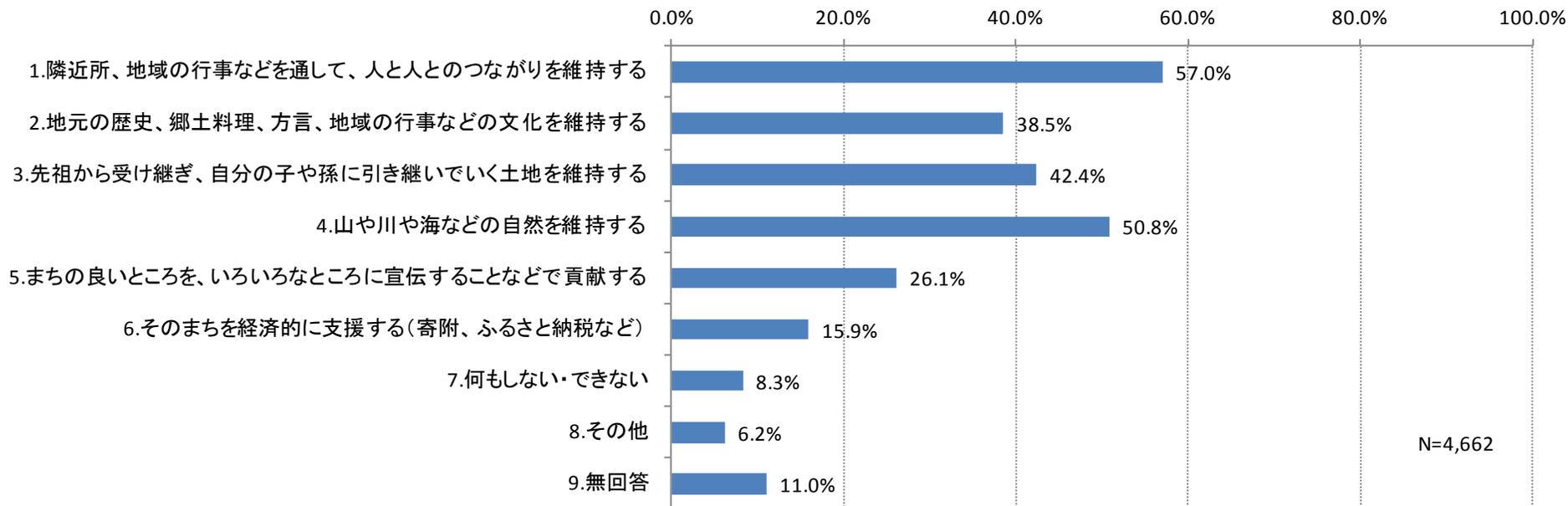


調査票 1

問7 まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて、あなたは今からどのようなことをしたいと思いますか。また、自分より年下の世代に今からどのようなことをしてほしいと思いますか。以下1～8のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 隣近所、地域の行事などを通して、人と人とのつながりを維持する	2659	57.0
2 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を維持する	1793	38.5
3 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地を維持する	1976	42.4
4 山や川や海などの自然を維持する	2370	50.8
5 まちの良いところを、いろいろなところに宣伝することなどで貢献する	1218	26.1
6 そのまちを経済的に支援する(寄附、ふるさと納税など)	739	15.9
7 何もしない・できない	389	8.3
8 その他	289	6.2
9 無回答	515	11.0

問7:まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいこと

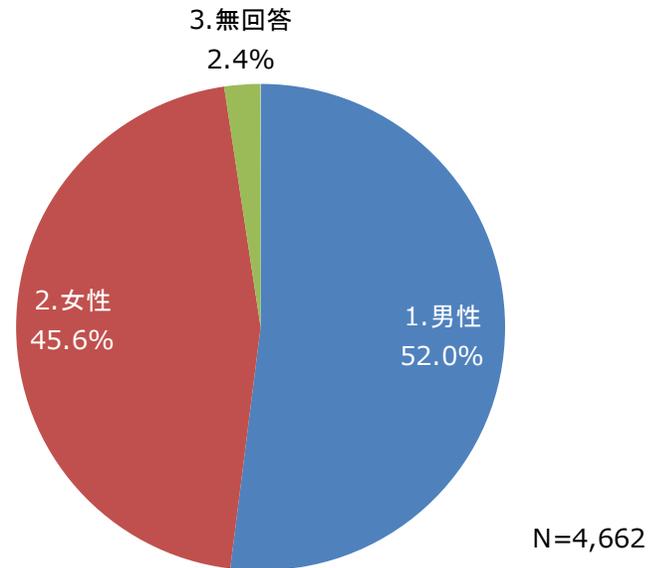


調査票 1

問8 あなたの性別をお答えください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 男性	2423	52.0
2 女性	2128	45.6
3 無回答	111	2.4

問8:性別

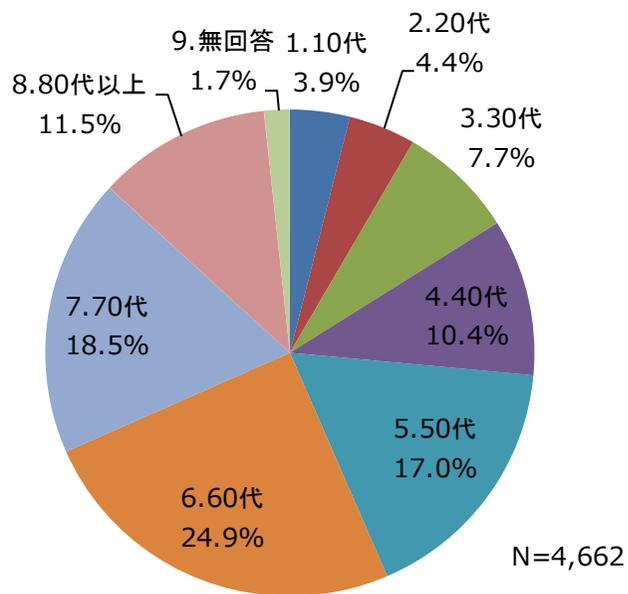


調査票 1

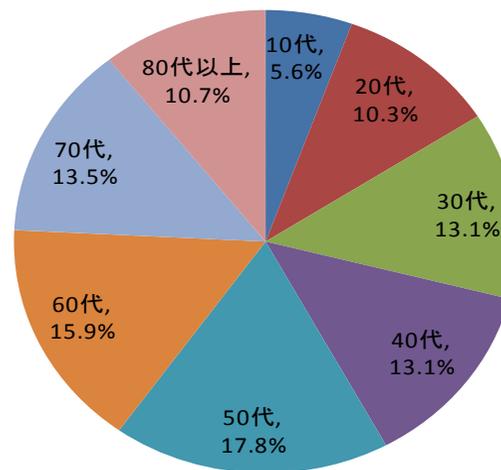
問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

		回収数	割合
	調査数	4662	100.0
1	10代	184	3.9
2	20代	207	4.4
3	30代	358	7.7
4	40代	485	10.4
5	50代	793	17.0
6	60代	1159	24.9
7	70代	862	18.5
8	80代以上	535	11.5
9	無回答	79	1.7

問9:年齢(右図は、平成22年国勢調査結果に基づく比率)



本調査結果



平成22年国勢調査結果

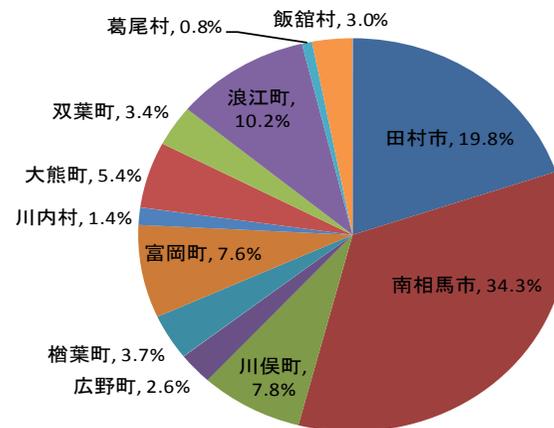
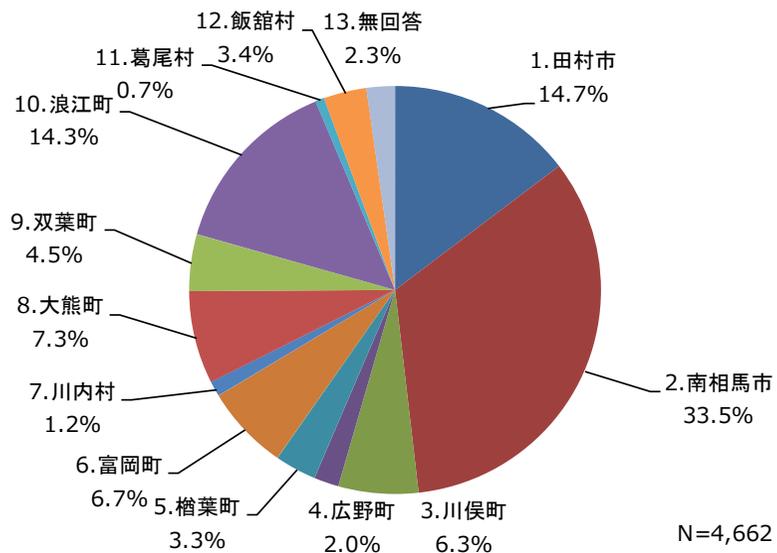
※概ね高校1年生相当以上の年齢(15歳以上、N=178,111)を集計対象としている。 12

調査票 1

問10 平成23年3月11日時点であなたがお住まいだった市町村を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 田村市	684	14.7
2 南相馬市	1561	33.5
3 川俣町	294	6.3
4 広野町	91	2.0
5 檜葉町	153	3.3
6 富岡町	312	6.7
7 川内村	56	1.2
8 大熊町	341	7.3
9 双葉町	209	4.5
10 浪江町	666	14.3
11 葛尾村	33	0.7
12 飯館村	157	3.4
13 無回答	105	2.3

問10:平成23年3月11日時点の居住市町村(右図は、平成22年国勢調査結果に基づく比率)



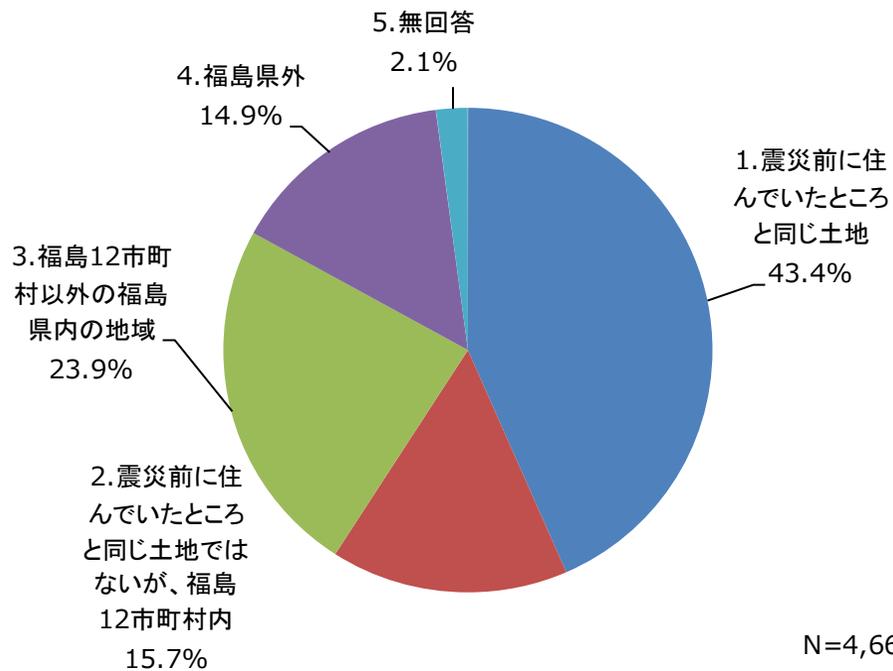
※概ね高校1年生相当以上の年齢(15歳以上、N=178,111)を集計対象としている。

調査票 1

問11 現在あなたがお住まいの地域について教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

	回収数	割合
調査数	4662	100.0
1 震災前に住んでいたところと同じ土地	2023	43.4
2 震災前に住んでいたところと同じ土地ではないが、福島12市町村内	734	15.7
3 福島12市町村以外の福島県内の地域	1112	23.9
4 福島県外	695	14.9
5 無回答	98	2.1

問11:現在の居住地域

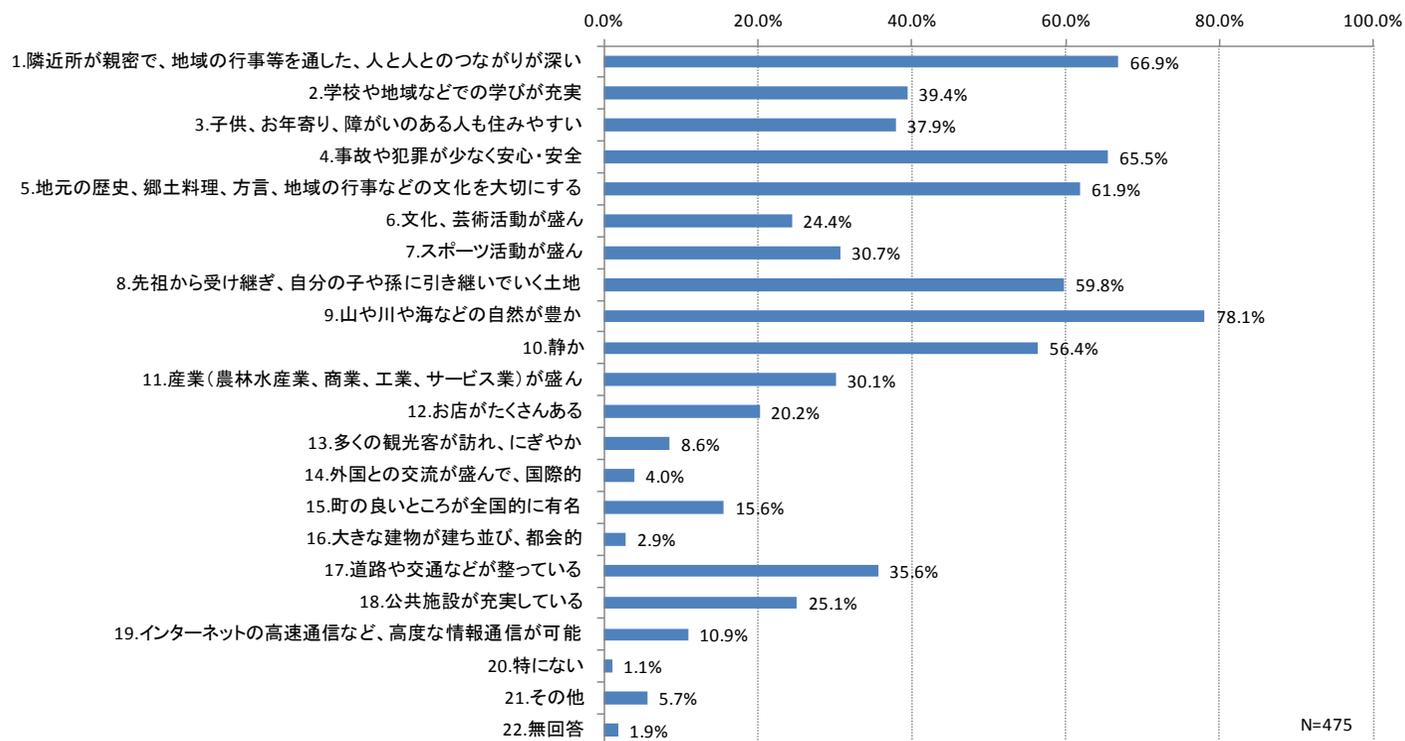


調査票 2

問1 あなたにとって、子どもの頃に住んでいた「ふるさと」はどのような「まち」ですか。
1～21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合		回収数	割合
調査数	475	100.0	12	96	20.2
1 隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人のつながりが深い	318	66.9	13	41	8.6
2 学校や地域などでの学びが充実	187	39.4	14	19	4.0
3 子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい	180	37.9	15	74	15.6
4 事故や犯罪が少なく安心・安全	311	65.5	16	14	2.9
5 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にする	294	61.9	17	169	35.6
6 文化、芸術活動が盛ん	116	24.4	18	119	25.1
7 スポーツ活動が盛ん	146	30.7	19	52	10.9
8 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地	284	59.8	20	5	1.1
9 山や川や海などの自然が豊か	371	78.1	21	27	5.7
10 静か	268	56.4	22	9	1.9
11 産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん	143	30.1			

問1：震災前の居住市町村について(複数回答)

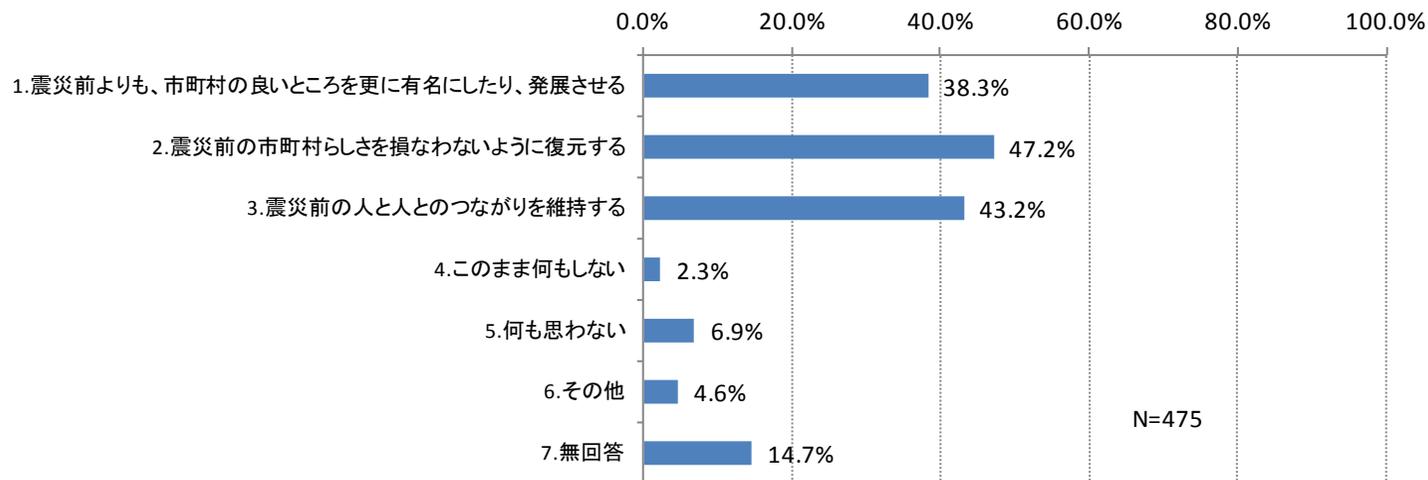


調査票 2

問2 あなたが大人になっていくにつれて、その「ふるさと」はどうなっていくのが良い
 と思いますか。1～6のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合
調査数	475	100.0
1 震災前よりも、市町村の良いところを更に有名にしたり、発展させる	182	38.3
2 震災前の市町村らしさを損なわないように復元する	224	47.2
3 震災前の人と人とのつながりを維持する	205	43.2
4 このまま何もしない	11	2.3
5 何も思わない	33	6.9
6 その他	22	4.6
7 無回答	70	14.7

問2:震災前の居住市町村の今後について(複数回答)

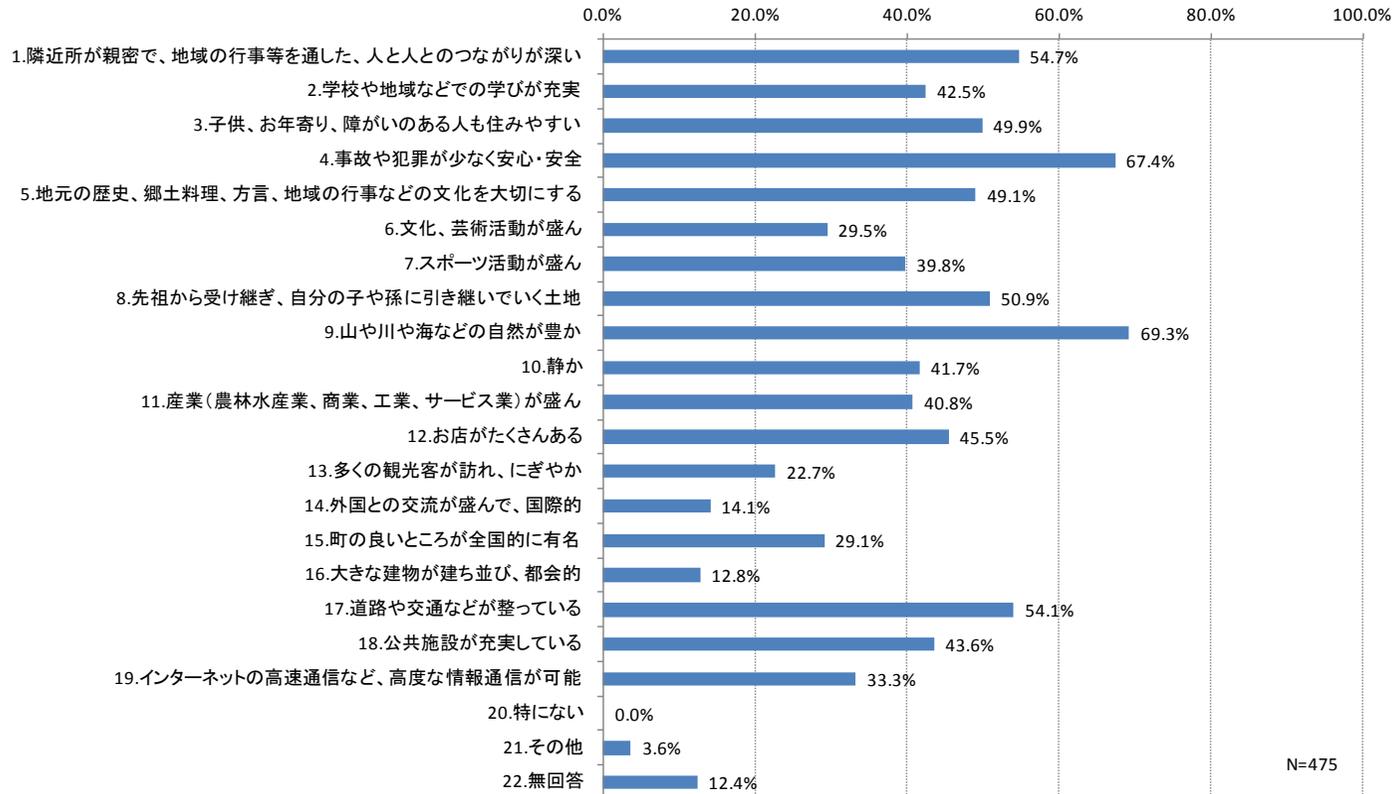


調査票 2

問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1～21のうち、
あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

	回収数	割合		回収数	割合
調査数	475	100.0	12	216	45.5
1 隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人のつながりが深い	260	54.7	13	108	22.7
2 学校や地域などでの学びが充実	202	42.5	14	67	14.1
3 子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい	237	49.9	15	138	29.1
4 事故や犯罪が少なく安心・安全	320	67.4	16	61	12.8
5 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にす	233	49.1	17	257	54.1
6 文化、芸術活動が盛ん	140	29.5	18	207	43.6
7 スポーツ活動が盛ん	189	39.8	19	158	33.3
8 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地	242	50.9	20	0	0.0
9 山や川や海などの自然が豊か	329	69.3	21	17	3.6
10 静か	198	41.7	22	59	12.4
11 産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん	194	40.8			

問3:震災前の居住市町村の希望将来像(複数回答)

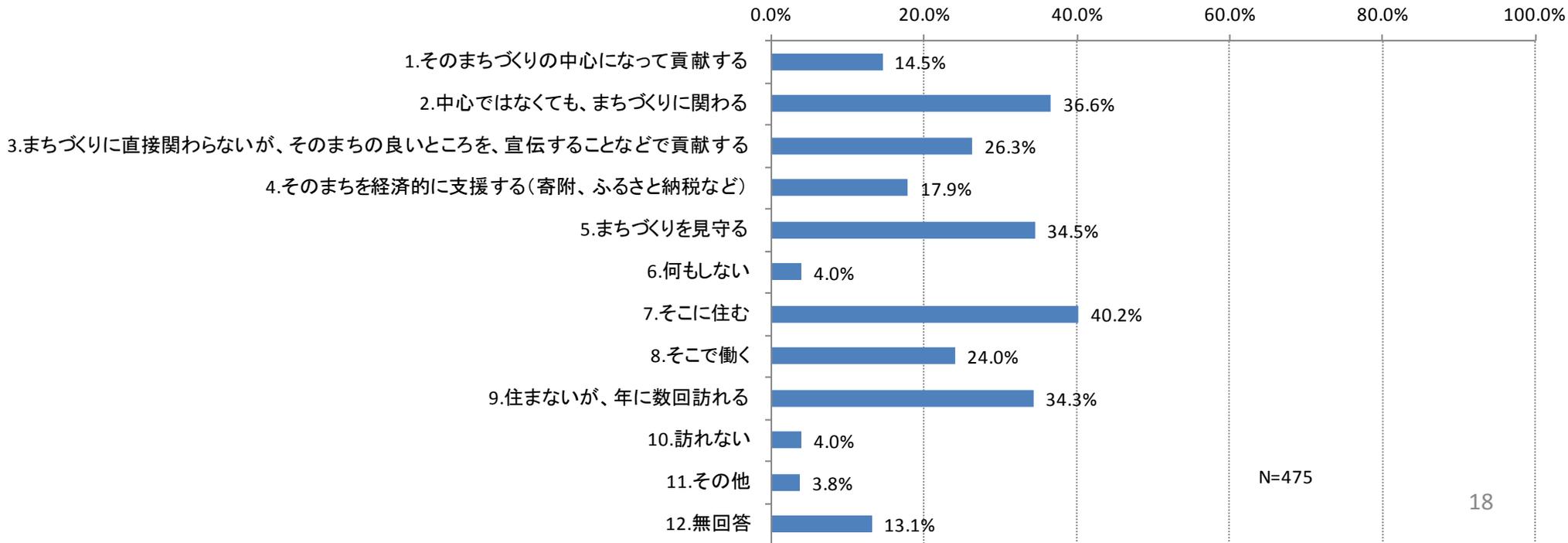


調査票 2

問4「ふるさと」を、住みたい「まち」にしていくために、あなたは、どのようなことをしたいと思いますか。1～11のうち当てはまる番号を○で囲んでください。
(○はいくつでも)

	回収数	割合
調査数	475	100.0
1 そのまちづくりの中心になって貢献する	69	14.5
2 中心ではなくても、まちづくりに関わる	174	36.6
3 まちづくりに直接関わらないが、そのまちの良いところを、宣伝することなどで貢献する	125	26.3
4 そのまちを経済的に支援する(寄附、ふるさと納税など)	85	17.9
5 まちづくりを見守る	164	34.5
6 何もしない	19	4.0
7 そこに住む	191	40.2
8 そこで働く	114	24.0
9 住まないが、年に数回訪れる	163	34.3
10 訪れない	19	4.0
11 その他	18	3.8
12 無回答	62	13.1

問4: 30～40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方(複数回答)

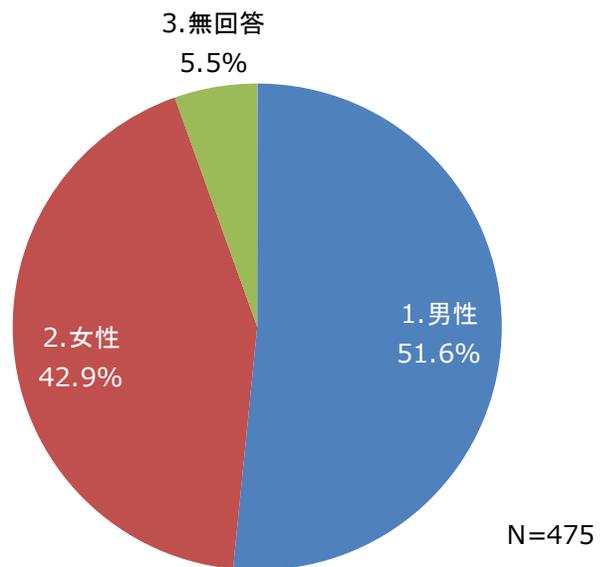


調査票 2

問5 あなたの性別をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

	回収数	割合
調査数	475	100.0
1 男性	245	51.6
2 女性	204	42.9
3 無回答	26	5.5

問5:性別

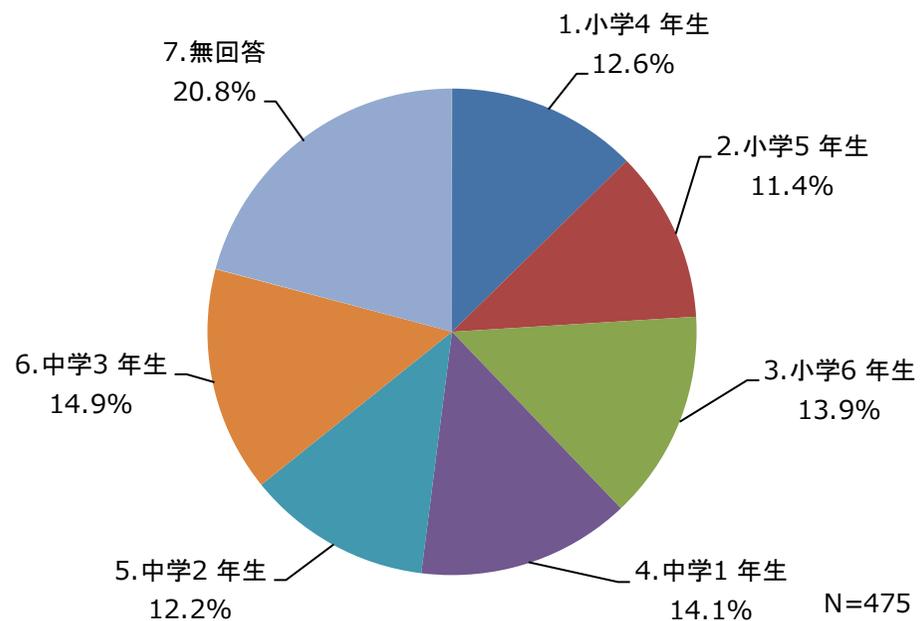


調査票 2

問6 あなたの現在の学年をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

		回収数	割合
	調査数	475	100.0
1	小学4年生	60	12.6
2	小学5年生	54	11.4
3	小学6年生	66	13.9
4	中学1年生	67	14.1
5	中学2年生	58	12.2
6	中学3年生	71	14.9
7	無回答	99	20.8

問6:学年

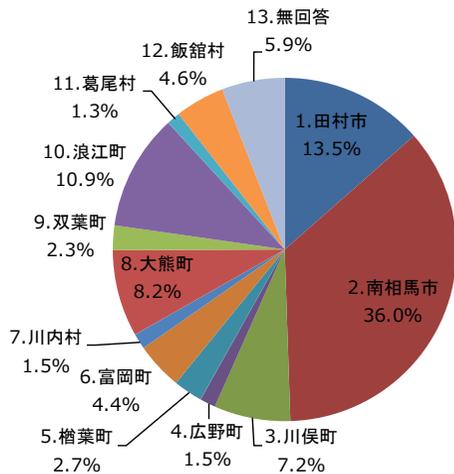


調査票 2

問7 平成23年3月11日時点であなたがお住まいだった市町村をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

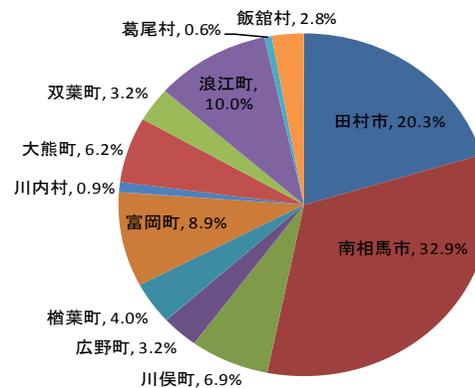
	回収数	割合
調査数	475	100.0
1 田村市	64	13.5
2 南相馬市	171	36.0
3 川俣町	34	7.2
4 広野町	7	1.5
5 檜葉町	13	2.7
6 富岡町	21	4.4
7 川内村	7	1.5
8 大熊町	39	8.2
9 双葉町	11	2.3
10 浪江町	52	10.9
11 葛尾村	6	1.3
12 飯館村	22	4.6
13 無回答	28	5.9

問7:平成23年3月11日時点の居住市町村(右図は、平成22年国勢調査結果に基づく比率)



本調査結果

N=475



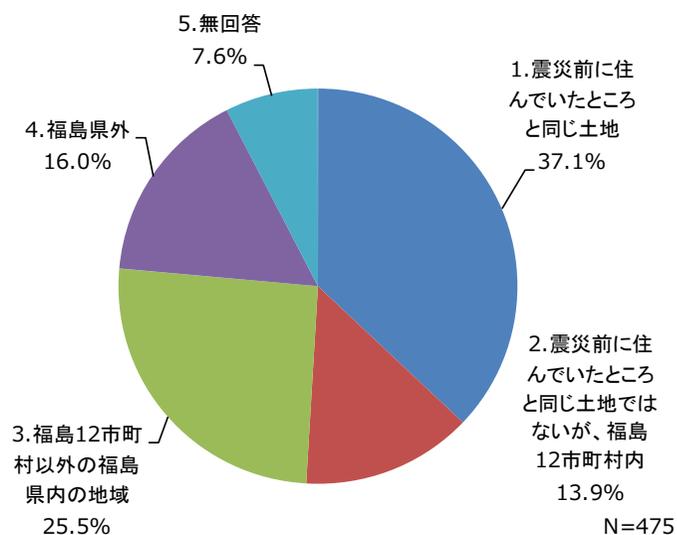
平成22年国勢調査結果※

※概ね小学4年生～中学3年生相当の年齢(10～14歳、N=10,008)を集計対象としている。

問8 現在あなたがお住まいの市町村についてお答えください。(〇は一つ)

	回収数	割合
調査数	475	100.0
1 震災前に住んでいたところと同じ土地	176	37.1
2 震災前に住んでいたところと同じ土地ではないが、福島12市町村内	66	13.9
3 福島12市町村以外の福島県内の地域	121	25.5
4 福島県外	76	16.0
5 無回答	36	7.6

問8：現在の居住地域



分析結果

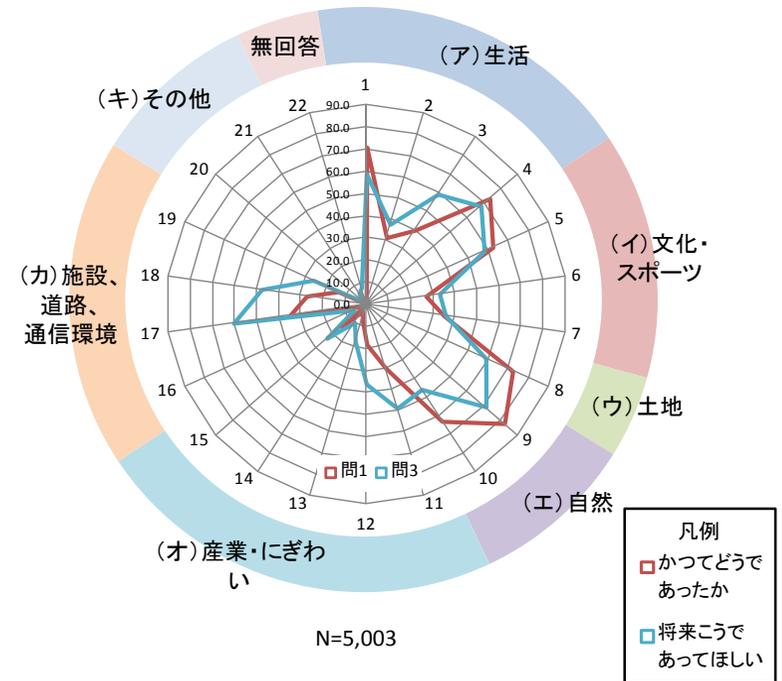
- かつての市町村にあてはまると答えた割合が高かった項目の順は、1位:「9.山や川や海などの自然が豊か」(81.8%)、2位:「4.事故や犯罪が少なく安心・安全」(73.1%)、3位:「8.先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地」(72.0%)、4位:「隣近所が親密で、地域の行事等を通じた、人と人とのつながりが深い」(71.0%)といった、昔ながらの市町村の良さと思われる項目であり、これらの項目は「将来こうであってほしい」と答えた割合も比較的高かった。
- 全体的に見ると、住民が期待する将来の市町村は、かつての市町村と大きくは変わらないことが見受けられる。
- かつての市町村にあてはまると答えた割合が比較的低かったもののうち、将来「こうであってほしい」と答えた割合が高かった項目の順は、「17.道路や交通などが整っている」(60.2%)、「3.子供、お年寄り、障害のある人も住みやすい」(59.3%)、「11.産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん」(49.0%)、「18.公共施設が充実している」(47.4%)であり、これらの項目については住民の将来に対する期待もうかがえる。
- 世代別に「将来こうであってほしい」と答えた項目を見ると、小中学生や10~20代の若い世代では、「7.スポーツ活動が盛ん」(45.5%)、「12.お店がたくさんある」(50.8%)、「19.インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能」(43.0%)が、他の年代に比べて割合が高かった。
- 男女別に「将来こうであってほしい」と答えた割合を見ると、回答に大きな差は無かった。男女の回答割合の差が最も大きかったのは「12.お店がたくさんある」であり、女性の方が異性を6.4ポイント上回った。
- 震災前に住んでいた市町村について、30~40年後、自分自身及び将来の中心世代がどのように関わるのが良いか質問し、世代別に比較した。
- 30~40年後の将来、震災前に住んでいた市町村に住むと回答した割合は、30代以上ではいずれの年代でも60.0%を超えており、小中学生を含む10~20代においては46.4%であった。
- 「何もしない」と回答した無関心層は、どの世代においてもごく僅かであり、大多数が何らかの形でまちづくりに関与すべきと考えていることがうかがえる。

分析結果①

- 震災前に住んでいた市町村について、「かつてどうであったか」と、将来「こうであってほしい」と思う項目について質問し、比較した。
- かつての市町村にあてはまると答えた割合が高かった項目の順は、1位:「9.山や川や海などの自然が豊か」(81.8%)、2位:「4.事故や犯罪が少なく安心・安全」(73.1%)、3位:「8.先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地」(72.0%)、4位:「隣近所が親密で、地域の行事等を通じた、人と人とのつながりが深い」(71.0%)といった、昔ながらの市町村の良さと思われる項目であり、これらの項目は「将来こうであってほしい」と答えた割合も比較的高かった。
- 全体的に見ると、住民が期待する将来の市町村は、かつての市町村と大きくは変わらないことが見受けられる。
- かつての市町村にあてはまると答えた割合が比較的低かったもののうち、将来「こうであってほしい」と答えた割合が高かった項目の順は、「17.道路や交通などが整っている」(60.2%)、「3.子供、お年寄り、障害のある人も住みやすい」(59.3%)、「11.産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん」(49.0%)、「18.公共施設が充実している」(47.4%)であり、これらの項目については住民の将来に対する期待もうかがえる。

震災前に住んでいた市町村について「かつてどうであったか」と「将来こうであってほしい」の回答傾向比較

No.	設問	%	
		問1: かつてどうであったか	問3: 将来こうであってほしい
1	隣近所が親密で、地域の行事等を通じた、人と人とのつながりが深い	71.0	59.2
2	(ア)生活 学校や地域などでの学びが充実	31.5	37.8
3	子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい	39.9	59.3
4	事故や犯罪が少なく安心・安全	73.1	67.9
5	(イ)文化・スポーツ 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切に	62.2	58.1
6	文化、芸術活動が盛ん	26.8	33.1
7	スポーツ活動が盛ん	35.0	35.8
8	(ウ)土地 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地	72.0	58.8
9	(エ)自然 山や川や海などの自然が豊か	81.8	71.0
10	静か	62.5	45.8
11	産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん	29.7	49.0
12	(オ)産業・にぎわい お店がたくさんある	17.9	36.1
13	多くの観光客が訪れ、にぎやか	7.1	17.7
14	外国との交流が盛んで、国際的	3.6	9.8
15	町の良いところが全国的に有名	15.2	23.5
16	(カ)施設、道路、通信環境 大きな建物が立ち並び、都会的	1.3	6.1
17	道路や交通などが整っている	35.0	60.2
18	公共施設が充実している	27.3	47.4
19	インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能	14.1	26.3
20	(キ)その他 特になし	0.9	1.8
21	他 その他	6.1	6.0
22	無回答	0.9	7.9



調査票1: 問1 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村にあてはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2: 問1 あなたにとって、子どもの頃に住んでいた「ふるさと」はどのような「まち」ですか。1~21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

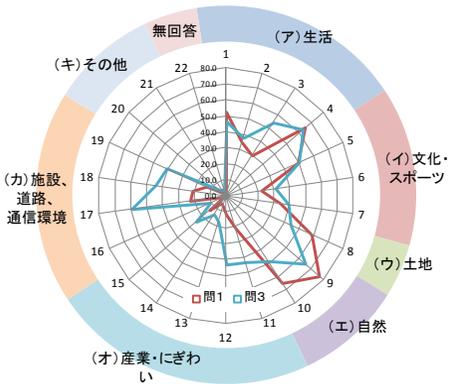
調査票1: 問3 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2: 問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1~21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

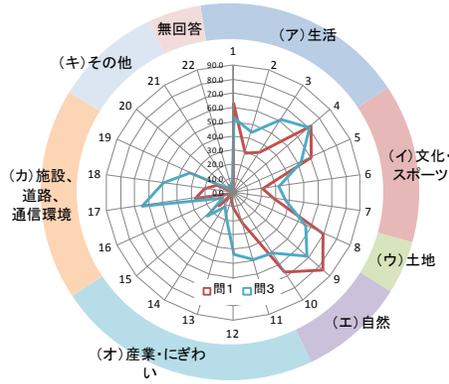
分析結果②

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)の両方で、かつて住んでいた市町村について、「かつてどうであったか」と、「将来こうであってほしい」と思う項目を質問した。
- 各世代に共通して「1.隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人とのつながりが深い」、「4.事故や犯罪が少なく安心・安全」、「5.地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にする」については、かつての市町村と同様に、将来も住民の意向が読み取れる。
- 各世代に共通して、特に、「17.道路や交通などが整っている」については、かつて住んでいた市町村に該当すると答えた割合は低かったが、「将来こうであってほしい」と回答した割合が高かった。
- 世代別にみると、小中学生や10代-20代では「7.スポーツ活動が盛ん」、「12.お店がたくさんある」、「19.インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能」が他の年代に比べて「将来こうであってほしい」と回答した割合が高かった。
- また、年代が上がるほど、「かつてどうであったか」の回答傾向と、「将来こうであってほしい」という希望の回答傾向が近いことが読み取れる。

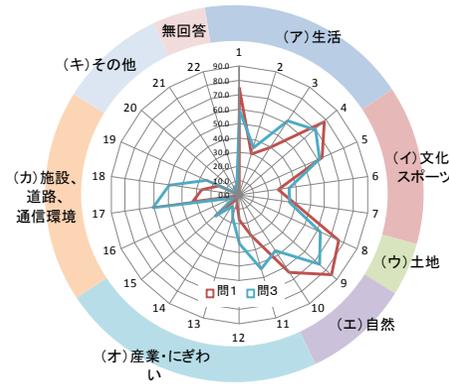
10代-20代(391)



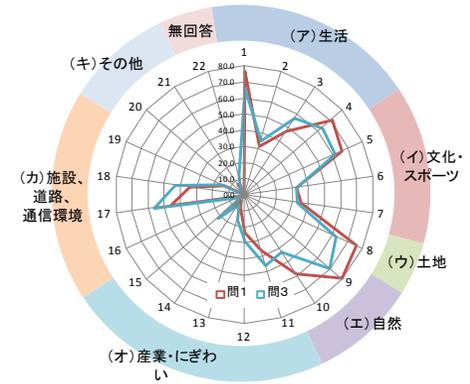
30代-40代(843)



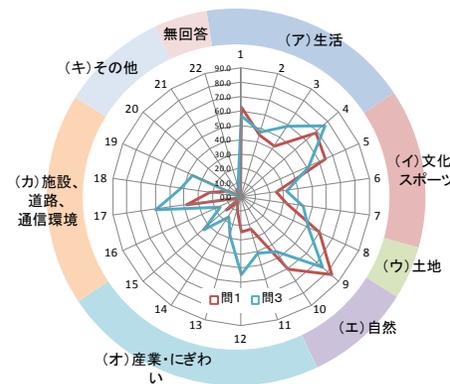
50代-60代(1,952)



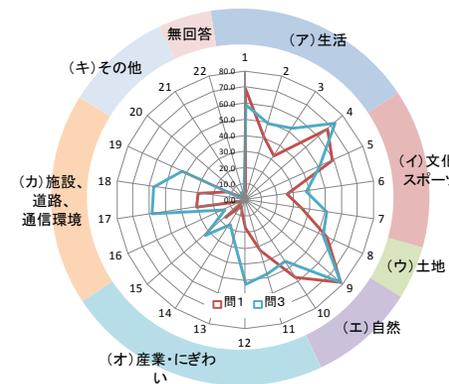
70代-80代(1,397)



小学生(180)



中学生(196)



凡例
■ かつてどうであったか
■ 将来こうであってほしい

NO	設問
1	隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人とのつながりが深い
2	学校や地域などでの学びが充実
3	(ア)生活 子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい
4	事故や犯罪が少なく安心・安全
5	(イ)文化・スポーツ 地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にする
6	文化、芸術活動が盛ん
7	スポーツ活動が盛ん
8	(ウ)土地 先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地
9	(エ)自然 山や川や海などの自然が豊か
10	静か
11	(オ)産業・にぎわい 産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん
12	お店がたくさんある
13	多くの観光客が訪れ、にぎやか
14	外国との交流が盛んで、国際的
15	町の良いところが全国的に有名
16	大きな建物が建ち並び、都会的
17	(カ)施設、道路、通信環境 道路や交通などが整っている
18	公共施設が充実している
19	インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能
20	(キ)その他 特になし
21	その他
22	無回答

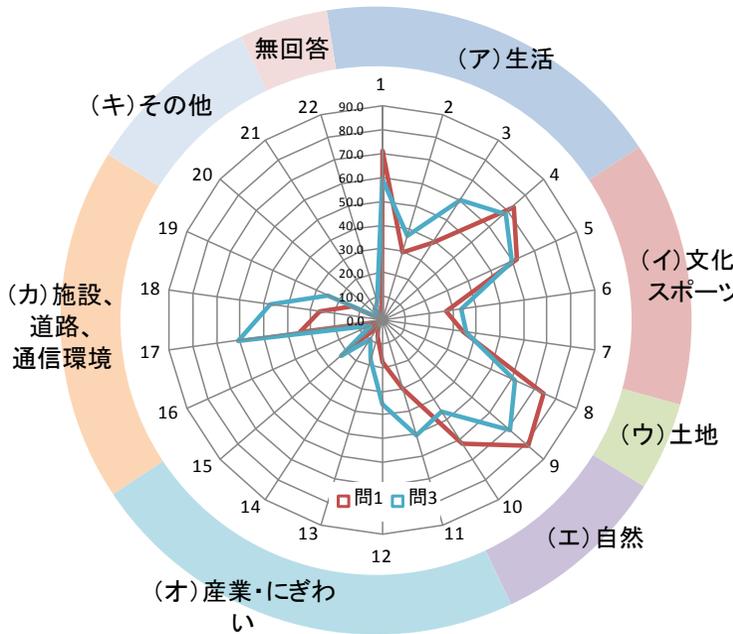
調査票1: 問1 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村に当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票2: 問1 あなたにとって、子どもの頃に住んでいた「ふるさと」はどのような「まち」ですか。1~21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票1: 問3 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票2: 問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1~21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)
 調査票2: 問6 あなたの現在の学年をお答えください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

分析結果③

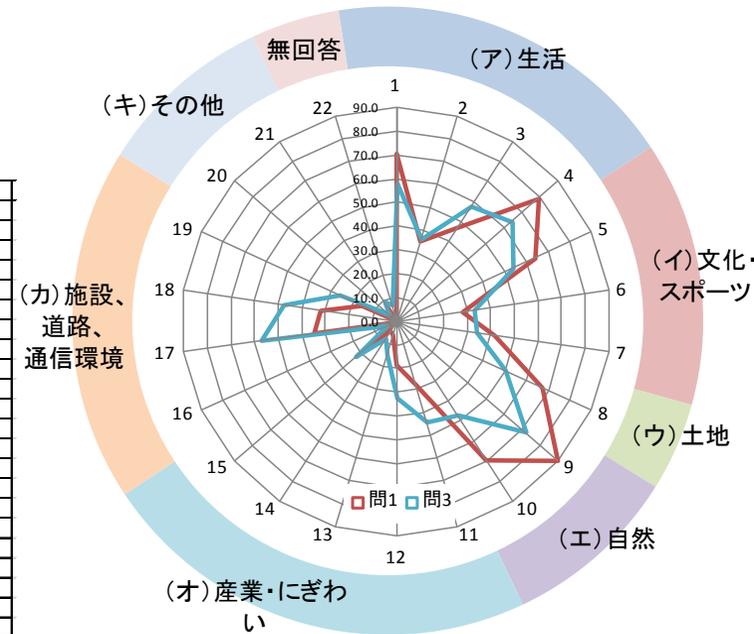
- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、かつて住んでいた市町村について、「かつてどうであったか」と、「将来こうであってほしい」と思う項目を質問し、現在の居住地別に回答を比較した。
- 県内・県外問わずほぼ同様の傾向がみられた。

(高校1年生相当の年齢以上)
現在の住まいが福島県内(3,869)

(高校1年生相当の年齢以上)
現在の住まいが福島県外(695)



NO	設問
1	隣近所が親密で、地域の行事等を通した、人と人とのつながりが深い
2	学校や地域などでの学びが充実
3	子供、お年寄り、障がいのある人も住みやすい
4	事故や犯罪が少なく安心・安全
5	地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を大切にする
6	文化、芸術活動が盛ん
7	スポーツ活動が盛ん
8	先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地
9	山や川や海などの自然が豊か
10	静か
11	産業(農林水産業、商業、工業、サービス業)が盛ん
12	お店がたくさんある
13	多くの観光客が訪れ、にぎやか
14	外国との交流が盛んで、国際的
15	町の良いところが全国的に有名
16	大きな建物が建ち並び、都会的
17	道路や交通などが整っている
18	公共施設が充実している
19	インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能
20	特になし
21	その他
22	無回答

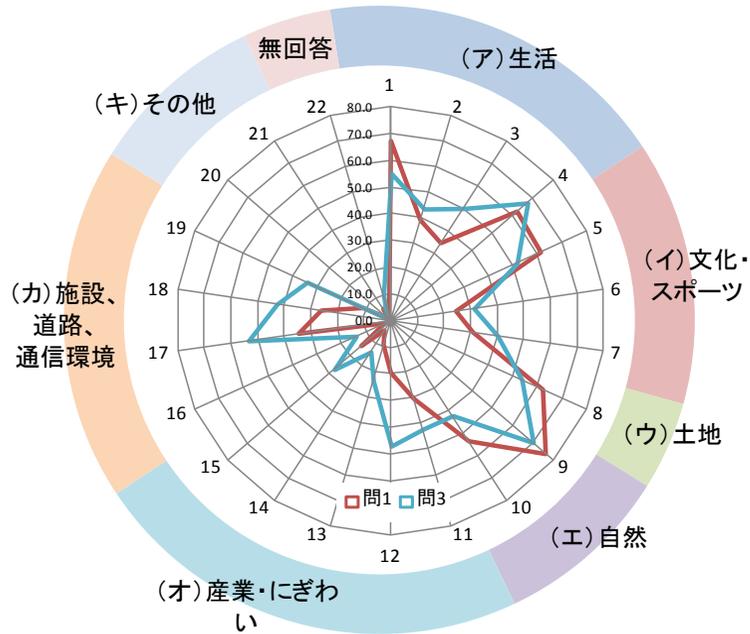


調査票1: 問1 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村に当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票1: 問3 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票1: 問11 現在あなたが住まいの地域について教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

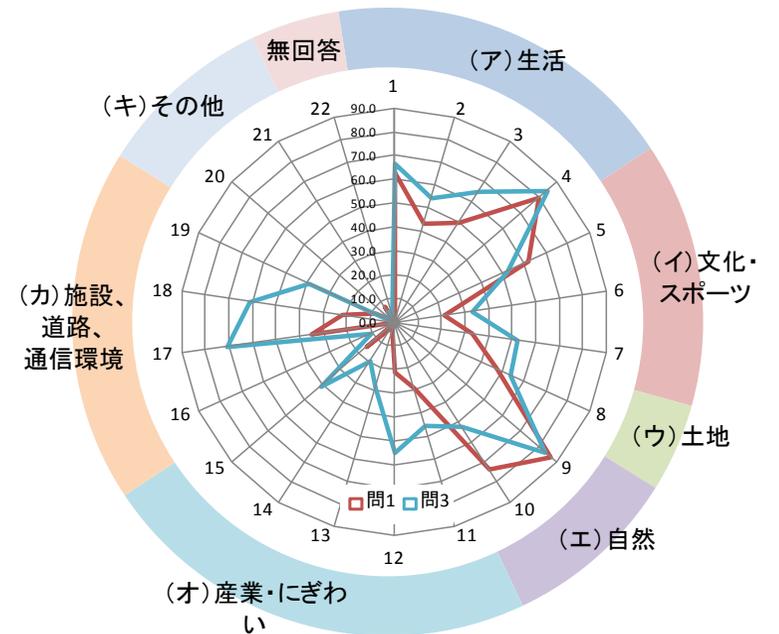
分析結果④

- ▶ 調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、かつて住んでいた市町村について、「かつてどうであったか」と、「将来こうであってほしい」という項目を質問し、現在の居住地別に回答を比較した。
- ▶ 県内・県外問わず、ほぼ同様の傾向がみられた。
- ▶ 特に、「12.お店がたくさんある」、「15.まちの良いところが全国的に有名」、「17.道路や交通などが整っている」「19.インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能」は、「かつてどうであった」と回答した割合を「将来こうであってほしいか」と回答した割合が大きく上回っている。

(小学校4年生から中学3年生)
現在の住まいが福島県内(363)



(小学校4年生から中学3年生)
現在の住まいが福島県外(76)

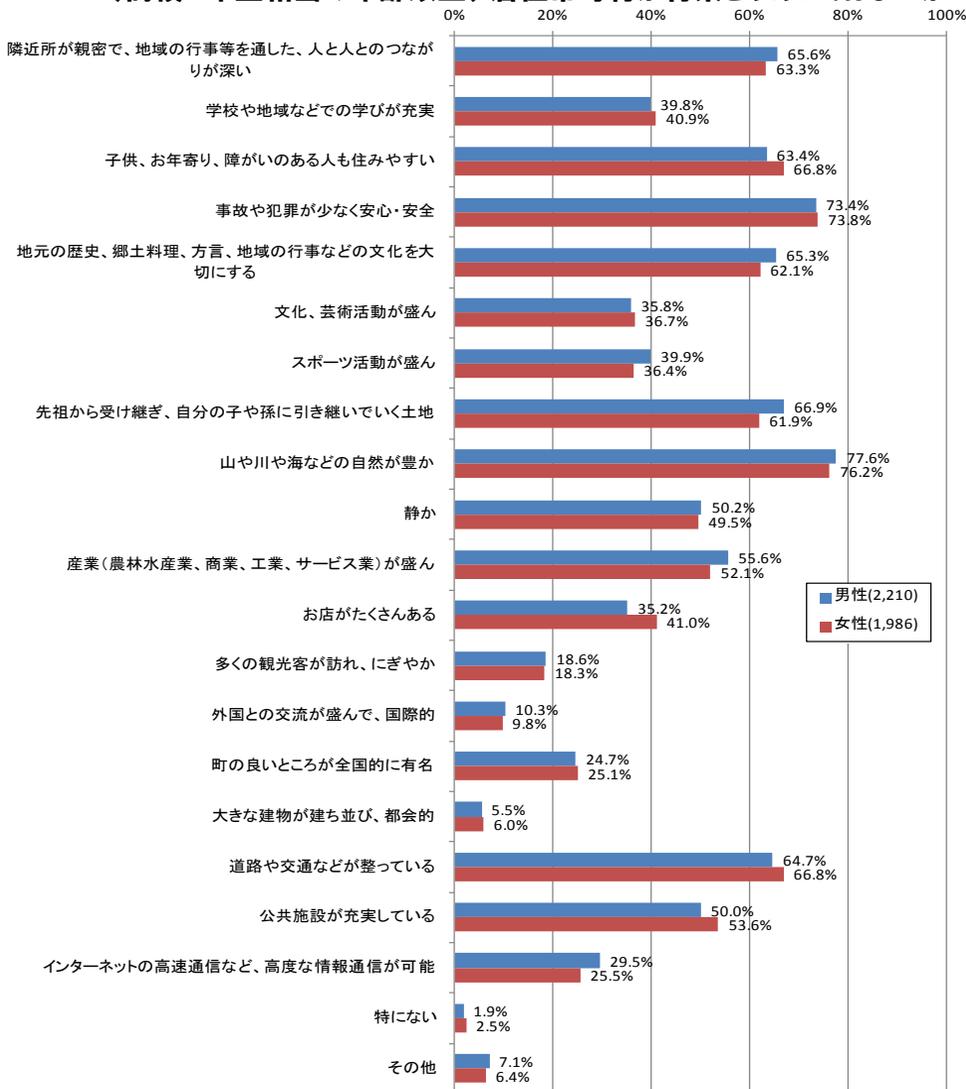


調査票2: 問1 あなたにとって、子どもの頃に住んでいた「ふるさと」はどのような「まち」ですか。1～21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票2: 問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1～21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票2: 問8 現在あなたがお住まいの市町村についてお答えください。(○は一つ)

分析結果⑤

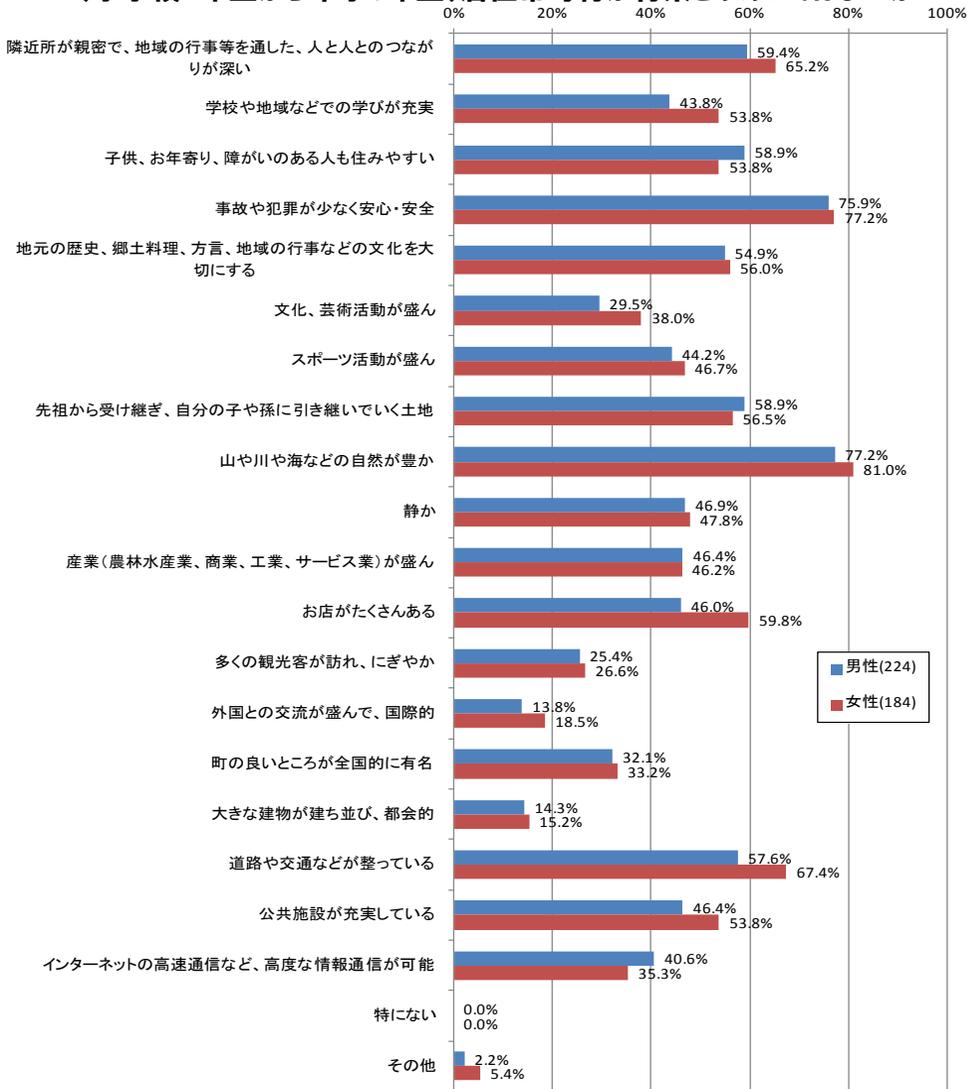
- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、かつて住んでいた市町村について将来どうあってほしいかを質問し、男女別で比較した。
- 調査票1、2問わず、「事故や犯罪が少なく安心・安全」や「山や川や海などの自然が豊か」の回答割合が高かった。
- 男女別にみると、調査票1、2共に、「お店がたくさんある」の回答割合は特に女性の方が高かった。

(高校1年生相当の年齢以上) 居住市町村が将来どうあってほしいか



調査票1: 問3 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

(小学校4年生から中学3年生) 居住市町村が将来どうあってほしいか

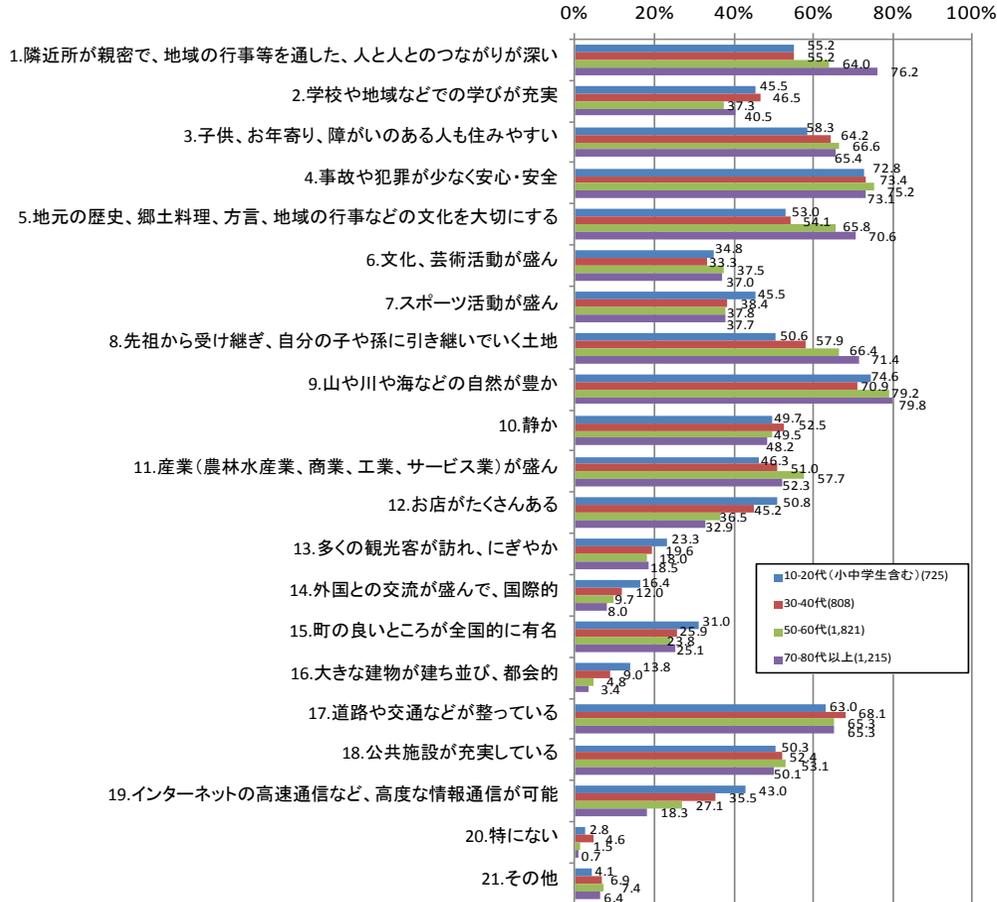


調査票2: 問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1~21のうち、29あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

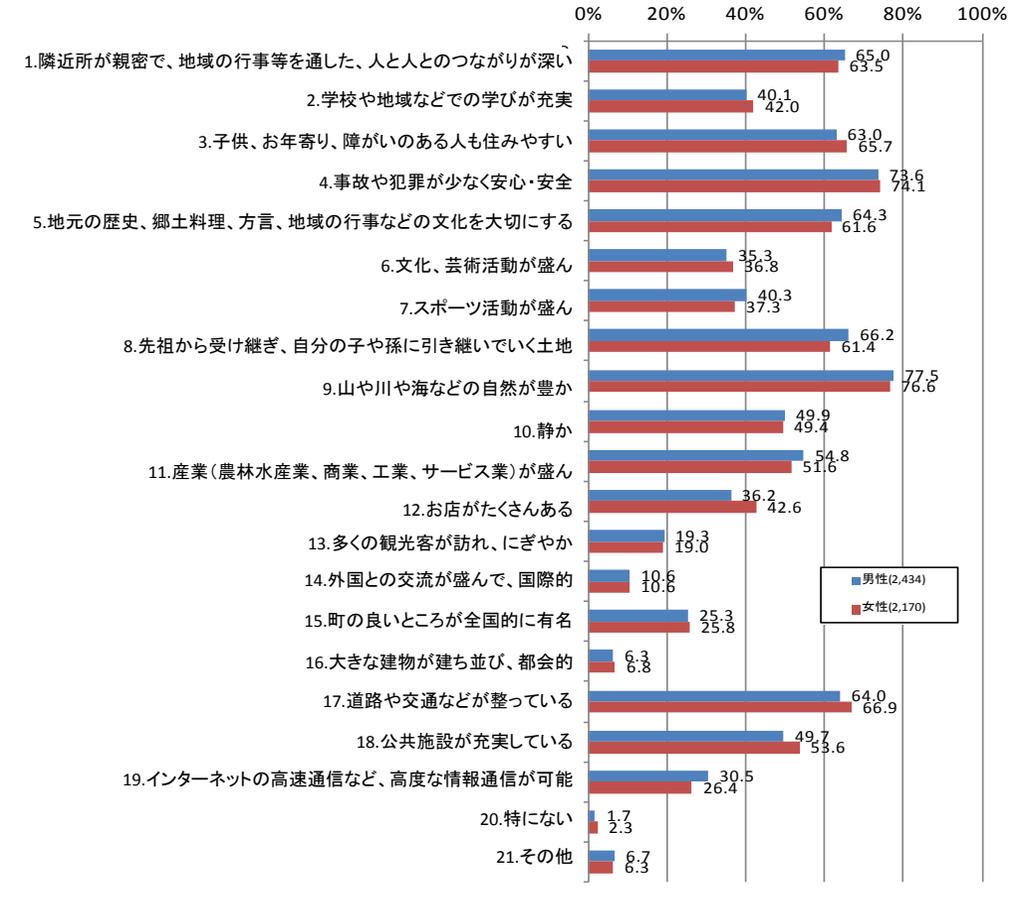
分析結果⑥

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、かつて住んでいた市町村について、将来どうあってほしいかを質問し、調査票1と2を統合した回答を年代別、男女別で比較した。
- 世代別に「将来こうであってほしい」と答えた項目を見ると、小中学生や10～20代の若い世代では、「7.スポーツ活動が盛ん」(45.5%)、「12.お店がたくさんある」(50.8%)、「19.インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能」(43.0%)が、他の年代に比べて割合が高かった。
- 男女別に「将来こうであってほしい」と答えた割合を見ると、回答に大きな差は無かった。男女の回答割合の差が最も大きかったのは「12.お店がたくさんある」であり、女性の方が男性を6.4ポイント上回った。

(調査票1・2統合)居住市町村が将来どうあってほしいか(年代別)



(調査票1・2統合)居住市町村が将来どうあってほしいか(性別)



調査票1: 問3 以下1～21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2: 問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1～21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

調査票2: 問6 あなたの現在の学年をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

調査票1: 問3 以下1～21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2: 問3 あなたが住みたい「まち」とはどのような「まち」ですか。1～21のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票1: 問8 あなたの性別をお答えください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

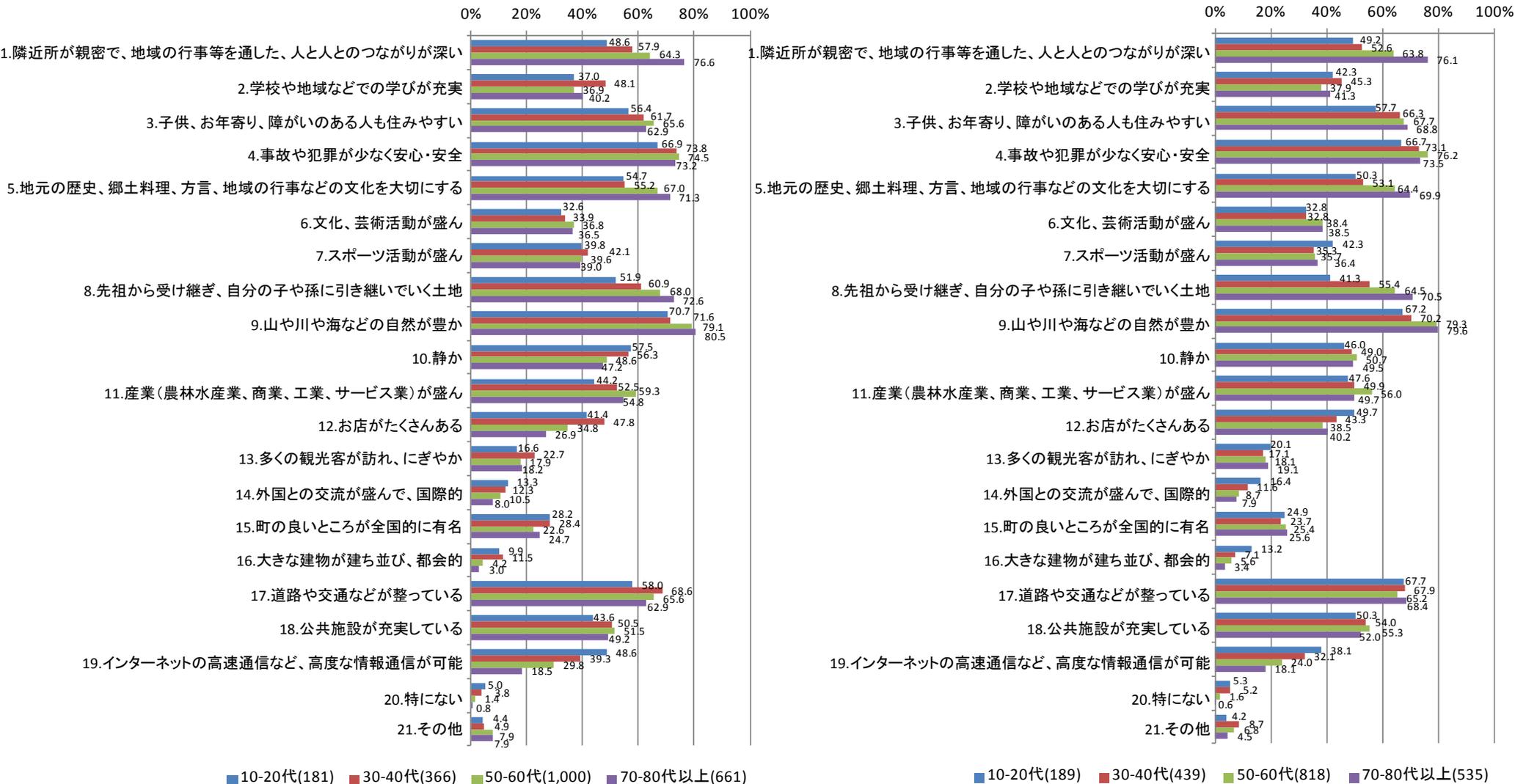
調査票2: 問5 あなたの性別をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

分析結果⑦

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、かつて住んでいた市町村について、将来どうあってほしいか質問し、回答を男女それぞれ年代別に比較した。
- 「学校や地域などでの学びが充実」の回答割合は、男女ともに30-40代が最も高かった。
- 「お店がたくさんある」の回答割合は10-20代女性の回答割合が最も高かった。
- 「インターネットの高速通信など、高度な情報通信が可能」は男女ともに若い世代である10-20代の回答割合が最も高かった。

(高校1年生相当の年齢以上) 居住市町村が将来どうあってほしいか(男性)

(高校1年生相当の年齢以上) 居住市町村が将来どうあってほしいか(女性)



調査票1: 問3 以下1~21のうち、震災前にお住まいだった市町村が将来「こうであってほしい」と思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

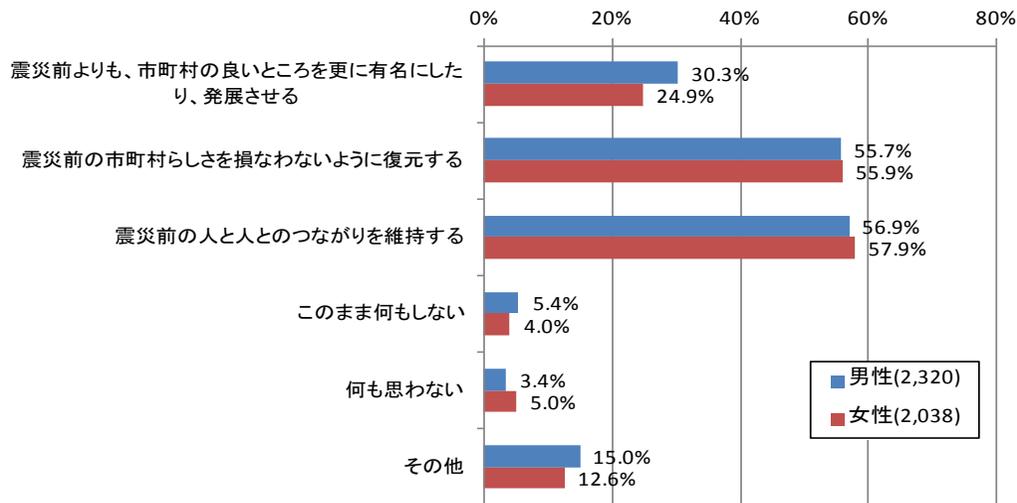
調査票1: 問8 あなたの性別をお答えください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

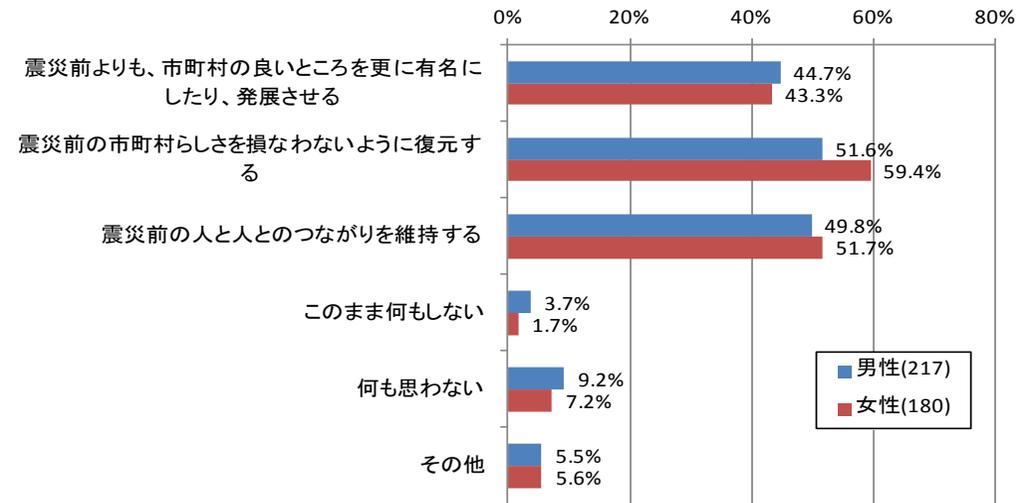
分析結果⑧

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、震災前の居住市町村の今後について、今後どうしていくとよいかを質問した。
- 調査票1、調査票2のいずれも、男女ともに「震災前の市町村らしさを損なわないよう復元する」や「震災前の人と人とのつながりを維持する」の回答割合が約50%~60%であった。
- また、調査票2では、「震災前よりも、市町村の良いところを更に有名にしたり、発展させる」の回答割合が調査票1よりも相対的に高かった。

(高校1年生相当の年齢以上)震災前の市町村の今後について



(小学校4年生から中学3年生)震災前の市町村の今後について



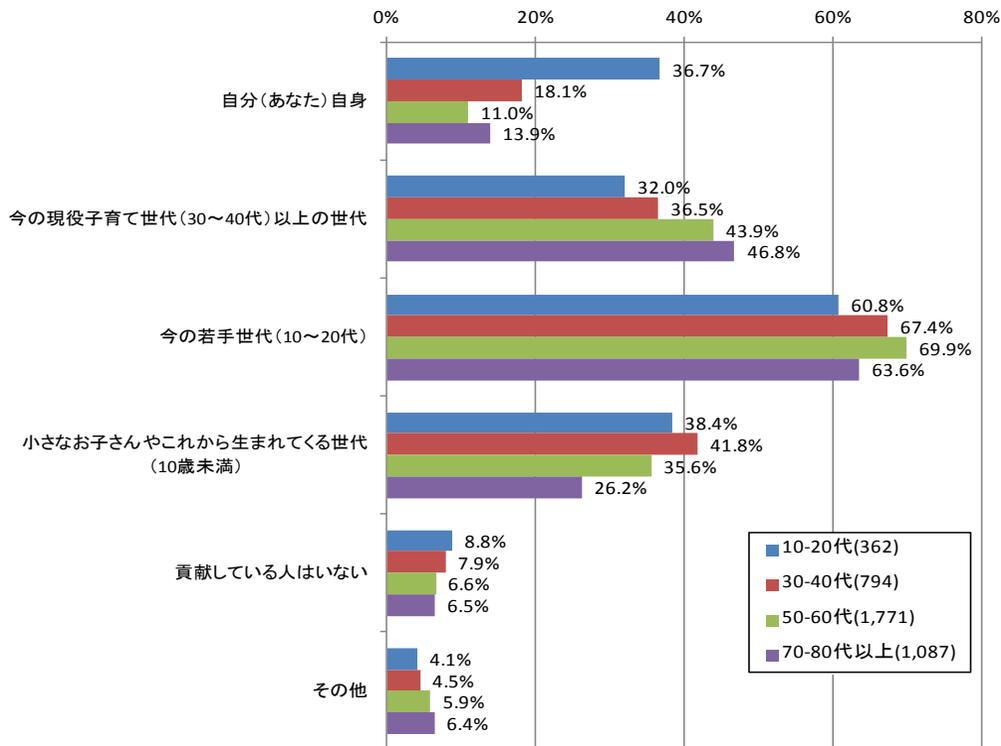
調査票1: 問2 あなたとしては震災前にお住まいだった市町村を今後どうしていくと良いと思いますか。1~6のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2: 問2 あなたが大人になっていくにつれて、その「ふるさと」はどうなっていくのが良いと思いますか。1~6のうち、あてはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

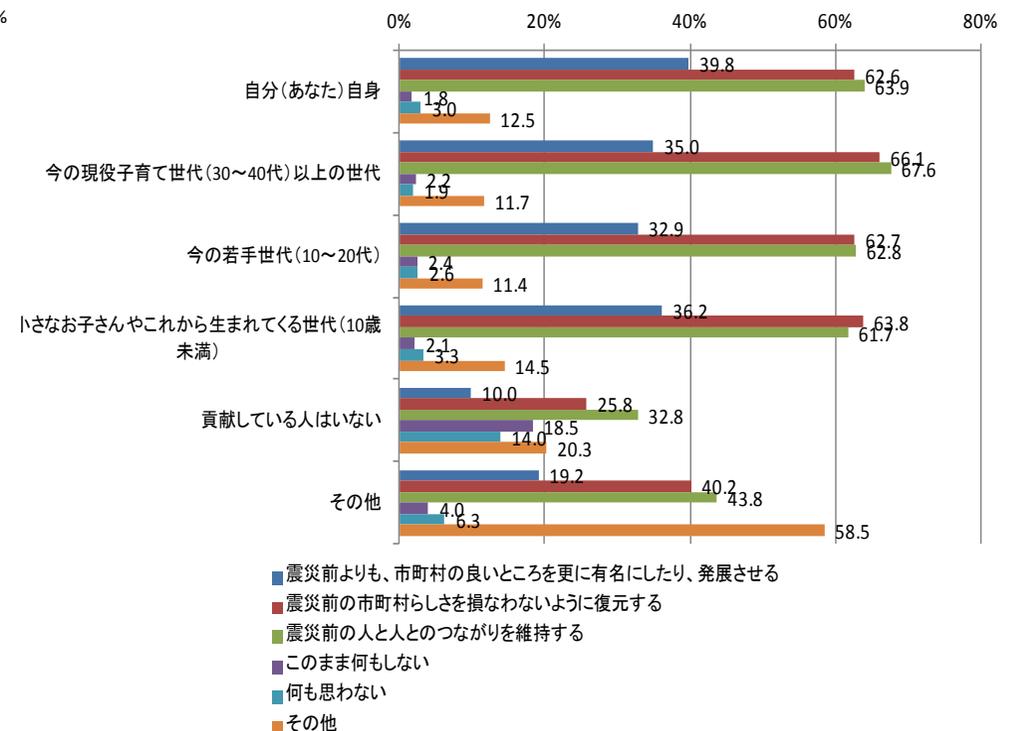
分析結果⑨

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、年代毎に、30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代について質問し、回答者の世代別に比較した(左図)。
- 「自分(あなた)自身」と回答した10-20代の割合は他の年代と比較して高かった。
- また、どの世代においても、「今の若手世代(10~20代)」の回答割合が最も高かった。
- 右図では、30年~40年後の復興の担い手となり得る主体の回答別に、震災前の居住市町村の今後について、今後どうしていくとよいかの回答を比較した。
- どの属性においても「震災前の市町村らしさを損なわないようにする」や「震災前の人と人との繋がりを維持する」の回答割合が他の項目と比較して高かった。

(高校1年生相当の年齢以上)
年代別の「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」



(高校1年生相当の年齢以上)
「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」毎のまちの今後について



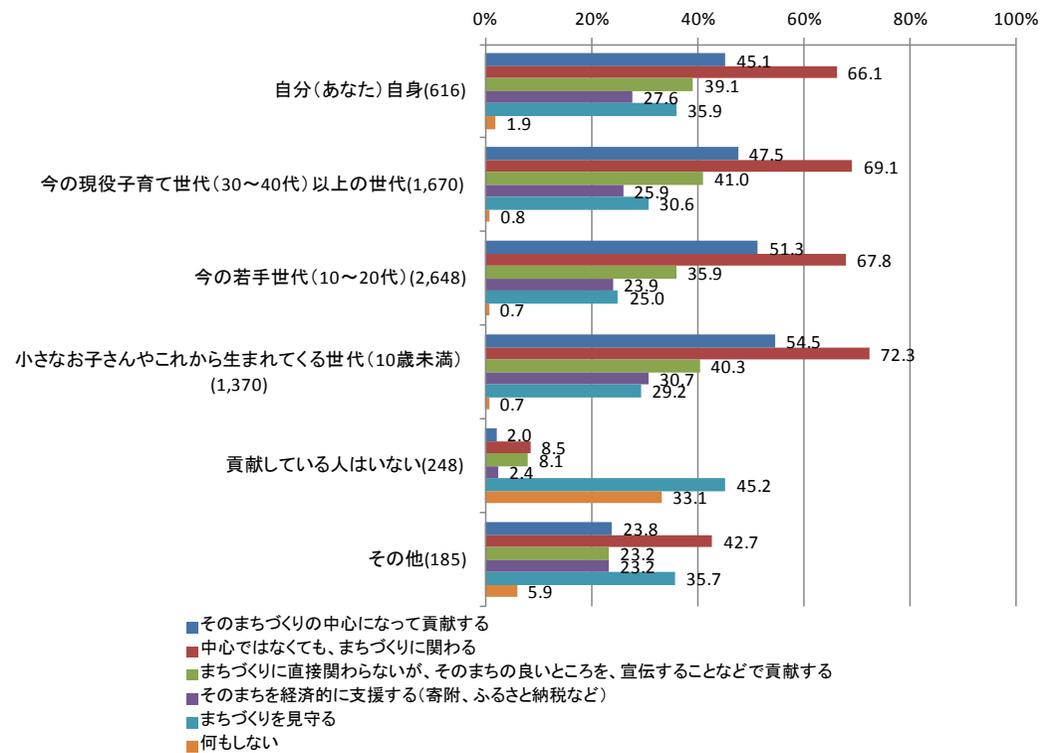
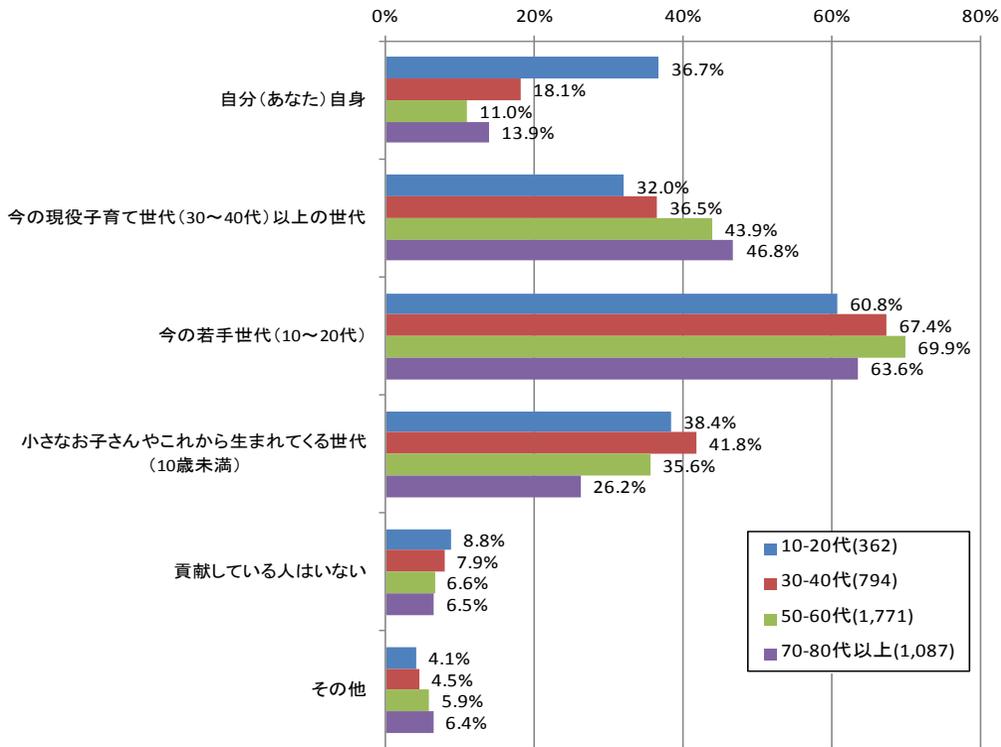
調査票1:問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

分析結果⑩

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代を質問し、回答した世代別に30~40年後に向けたまちづくりへの関わり方を比較した。
- 「そのまちづくりの中心になって貢献する」の回答割合は、いずれの属性においても50%前後であった。
- 「中心ではなくても、まちづくりに関わる」の回答割合は、いずれの属性においても70%前後であった。

【再掲】(高校1年生相当の年齢以上)
年代別の「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」

「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」毎の30~40年後に向けたまちづくりへの関わり方



調査票1: 問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

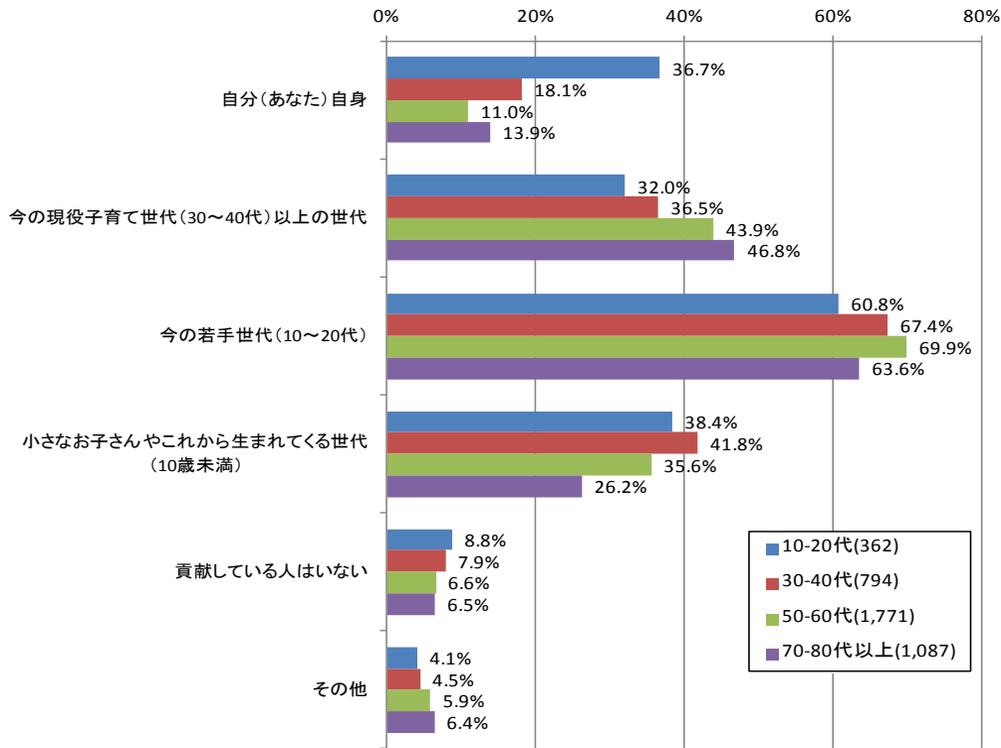
調査票1: 問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票1: 問6 30~40年後のまちづくりに向けて、「問5でお答えいただいた世代」は、震災前にお住まいだった市町村にどのように関わるのがよいですか。以下1~11のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

分析結果⑪

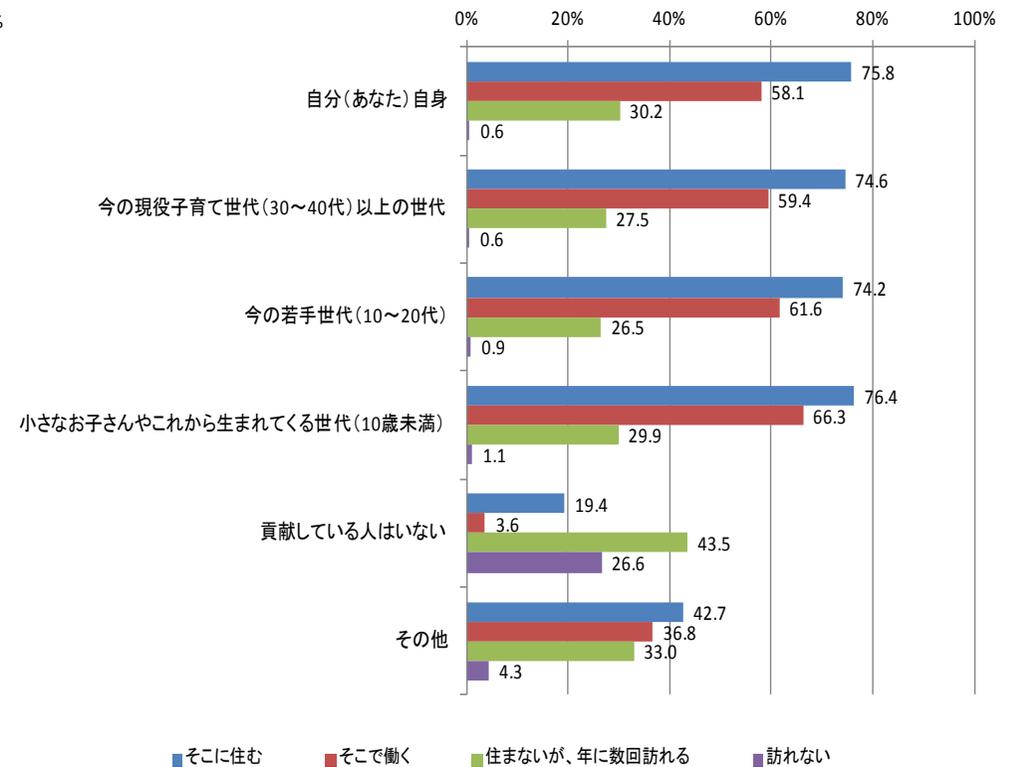
- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代を質問し、回答した世代別に、30~40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方を比較した。
- 「そこに住む」の回答割合はいずれの属性においても、70%を超えた。
- 「そこで働く」の回答割合はいずれの属性においても、60%前後となった。

【再掲】(高校1年生相当の年齢以上)
年代別の「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」



調査票1: 問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」毎の30~40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方



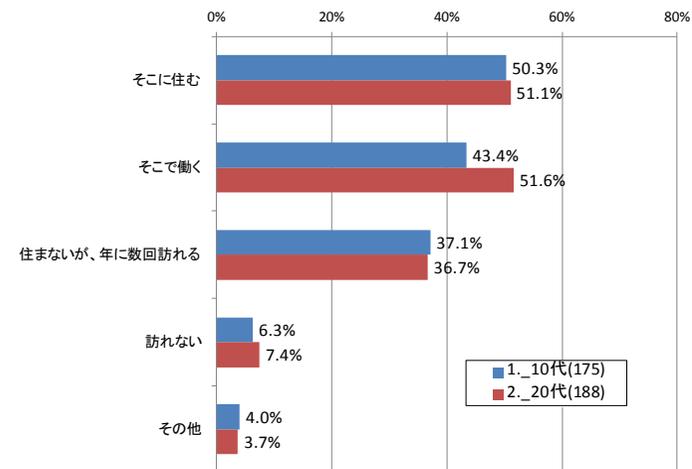
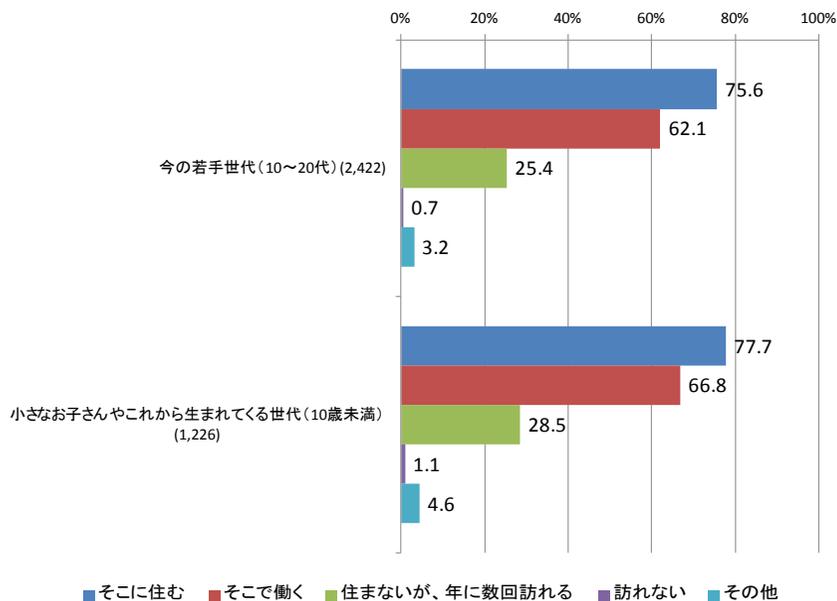
調査票1: 問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
調査票1: 問6 30~40年後のまちづくりに向けて、[問5でお答えいただいた世代]は、震災前にお住まいだった市町村にどのように関わるのがよいですか。以下1~11のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

分析結果⑫

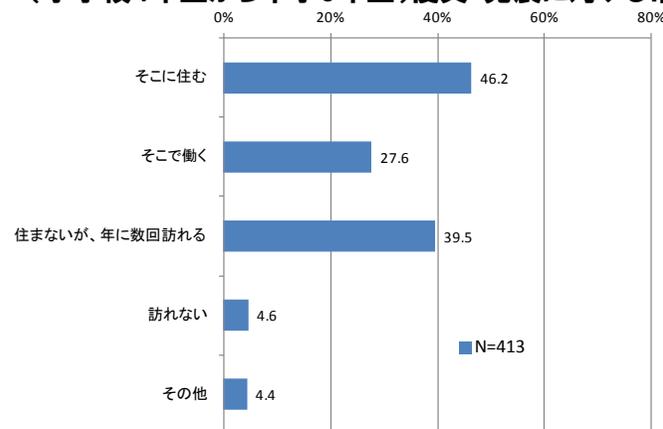
- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、30~40年後の時点で復興・発展に貢献している世代を質問し、30代以上が今の若手世代(10代~20代)や10歳未満に対し、市町村とどのように関わるのが良いと思うかを比較した。
- 一方、調査票1(高校1年生相当の年齢以上)(10代-20代)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、30~40年後の復興・発展に対する市町村との関わり方を質問し、世代別に比較した。
- 30代以上の世代では、「今の若手世代」や「小さなお子さんやこれから生まれてくる世代」に対して、「そこに住む」の回答割合が最も高く、次いで「そこで働く」となった。
- 10代-20代では、「そこに住む」の回答割合が50%を超えた。また、20代では「そこで働く」の回答割合が50%を超えた。
- 一方、小中学生では「そこに住む」の回答割合が最も高く、次いで、「住まないが、年に数回訪れる」の回答割合が高かった。

(高校1年生相当の年齢以上)復興・発展に対する市町村との関わり(10-20代)

(高校1年生相当の年齢以上) 30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために 貢献する世代(30代以上)



(小学校4年生から中学3年生)復興・発展に対する市町村との関わり



調査票1: 問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

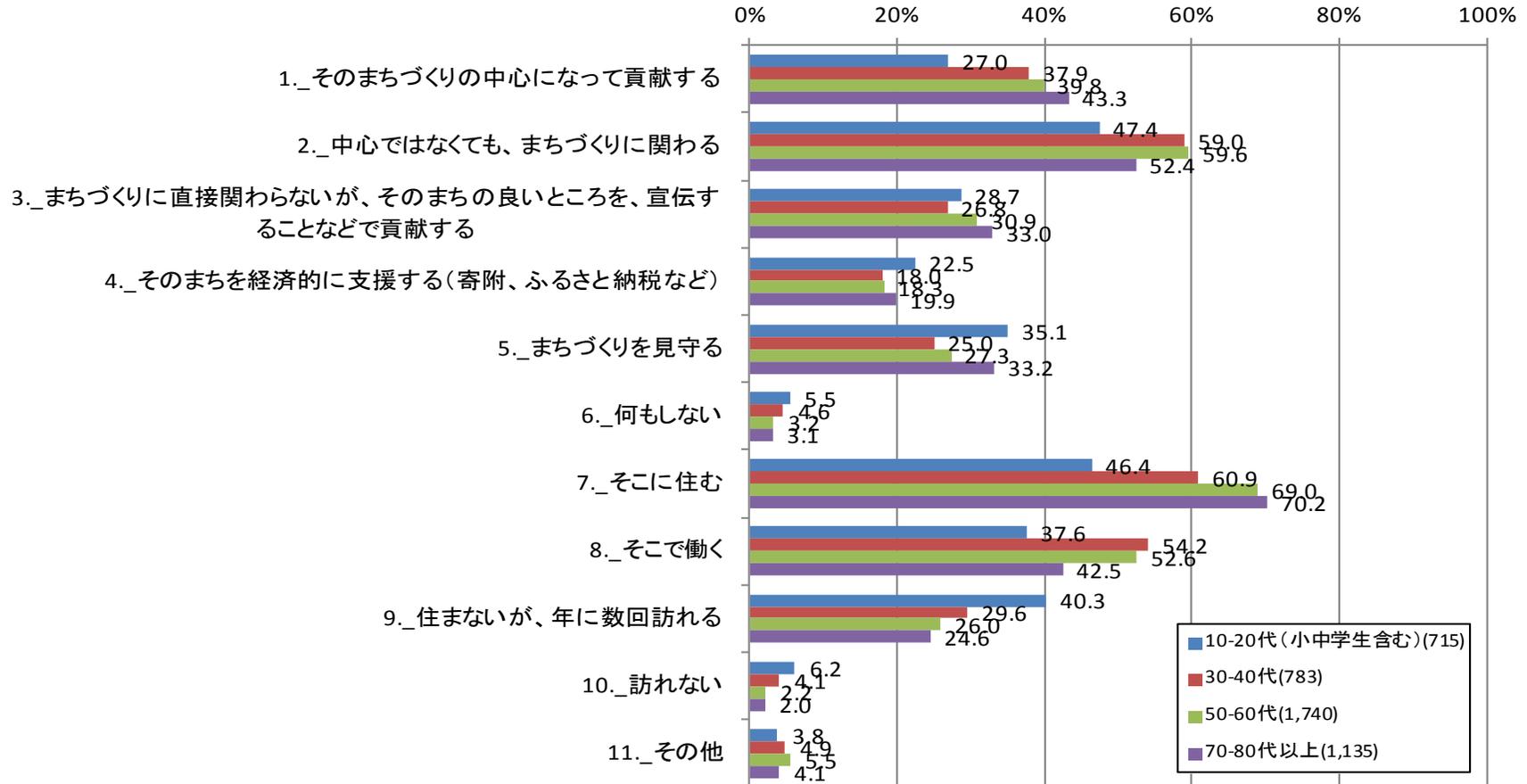
調査票1: 問6 30~40年後のまちづくりに向けて、[問5でお答えいただいた世代]は、震災前にお住まいだった市町村にどのように関わるのがよいですか。以下1~11のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください(○はいくつでも)

調査票2: 問4「ふるさと」を、住みたい「まち」にしていくために、あなたは、どのようなことをしたいと思いますか。1~11のうち当てはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

分析結果⑬

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、震災前に住んでいた市町村について、30~40年後の将来どのように関わりたいかを質問した。
- 30~40年後の将来、震災前に住んでいた市町村に住むと回答した割合は、30代以上ではいずれの年代でも60.0%を超えており、小中学生や10~20代においては46.4%であった。
- 「何もしない」と回答した無関心層は、どの世代においてもごく僅かであり、大多数が何らかの形でまちづくりに関与すべきと考えていることがうかがえる。

震災前に住んでいた市町村について、30~40年後の将来どのように関わりたいか(年代別)



調査票1: 問7 まちが復興・発展するために、30~40年後に向けて、あなたは今からどのようなことをしたいと思いますか。また、自分より年下の世代に今からどのようなことをしてほしいとおもいますか。以下1~8のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2: 問4 「ふるさと」を、住みたい「まち」にしていくために、あなたは、どのようなことをしたいと思いますか。1~11のうち当てはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

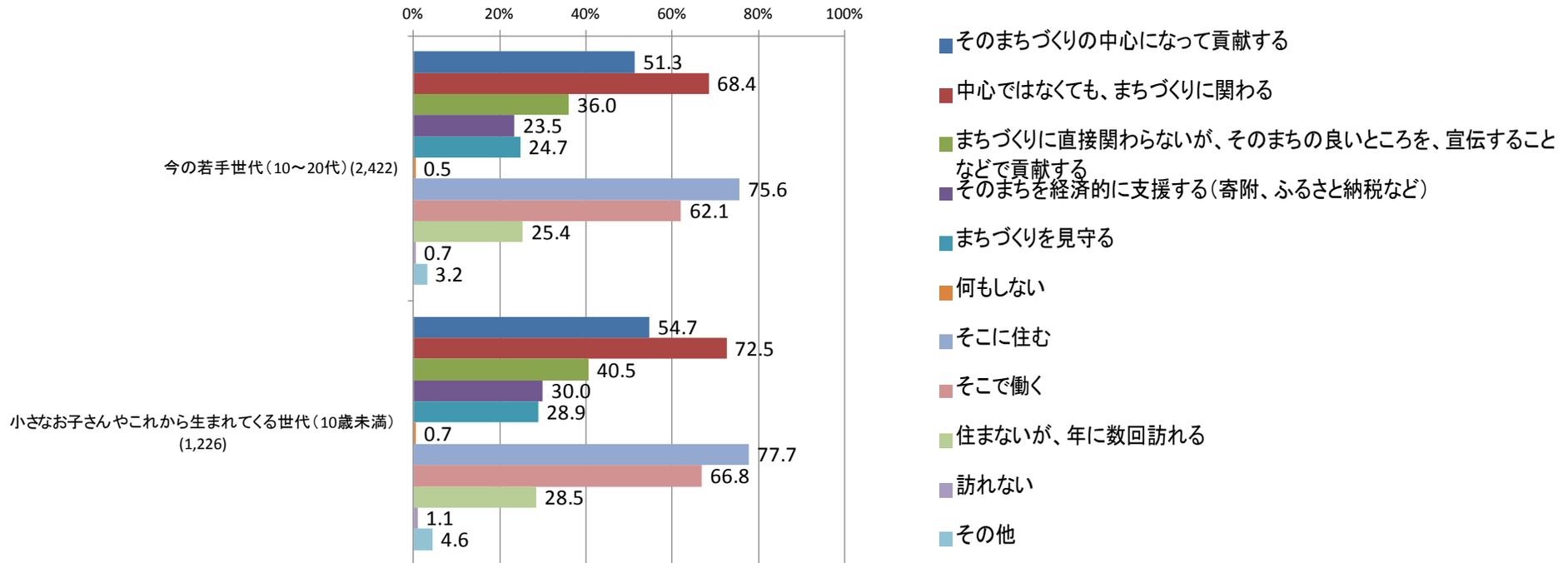
調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

調査票2: 問6 あなたの現在の学年をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

分析結果⑭

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、30~40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方について質問し、30代以上の、若い世代に対する意向を比較した。
- 「今の若い世代(10~20代)」、「小さなお子さんやこれから生まれてくる世代(10歳未満)」いずれについても、「そのまちづくりの中心になって貢献する」、「中心ではなくても、まちづくりに関わる」、「そこに住む」、「そこで働く」に関する30代以上の回答割合は高かった。

(高校1年生相当の年齢以上)「30~40年後、震災前の居住市町村の復興・発展のために貢献する世代」(30代以上)



調査票1: 問5 以下1~6のうち、30~40年後の時点で、震災前にお住まいだった市町村の復興・発展のために貢献している世代として、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

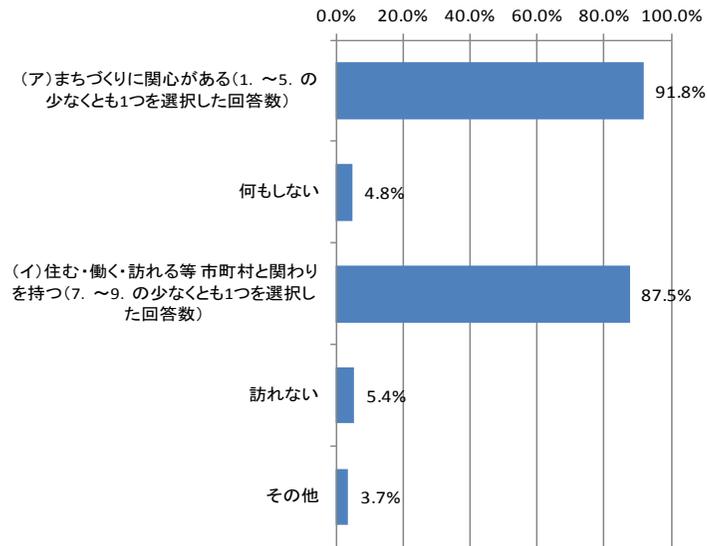
調査票1: 問6 30~40年後のまちづくりに向けて、[問5でお答えいただいた世代]は、震災前にお住まいだった市町村にどのように関わるのがよいですか。以下1~11のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

分析結果⑮

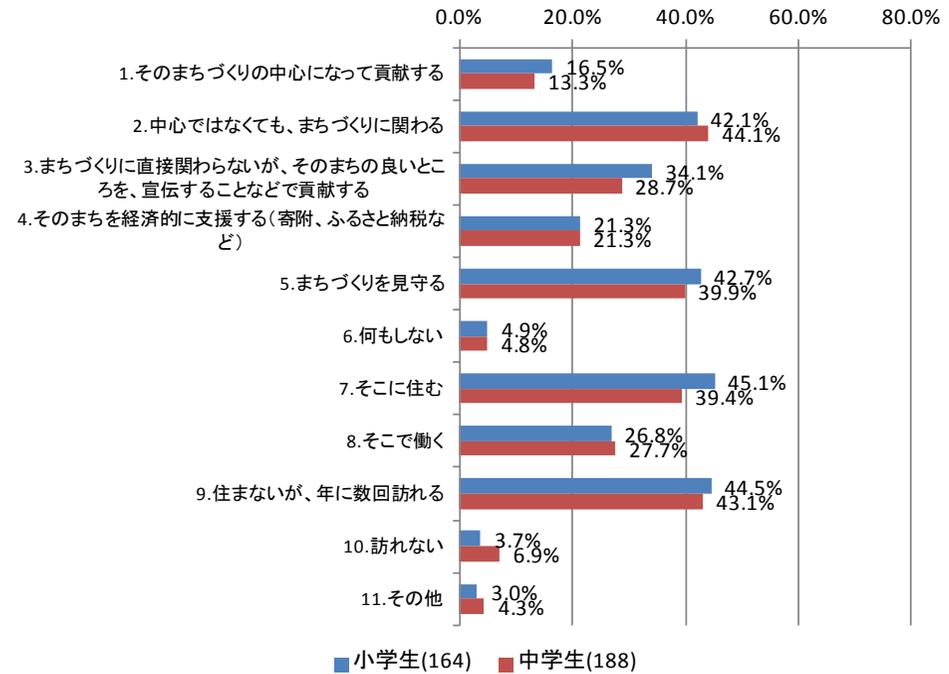
- 調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、30～40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方について質問し、小学生と中学生の回答を比較した。
- 「1.そのまちづくりの中心になって貢献する」、「2.中心ではなくても、まちづくりに関わる」など、「(ア)まちづくりに関心がある(1.～5.の少なくとも一つを選択した回答数)」の回答割合は91.8%であった。また、「7.そこに住む」、「8.そこで働く」など、「(イ)住む・働く・訪れる等市町村と関わりをもつ(7.～9.の少なくとも一つを選択した回答数)」の回答割合は、87.5%であった。一方、「何もしない」と回答したのは、4.8%であった。
- 回答結果を細項目別にみると、小中学生ともに大きな差は見られなかった。

(小学校4年生から中学3年生) 30～40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方

(大項目別の集計結果) (352)



(細項目別の集計結果)

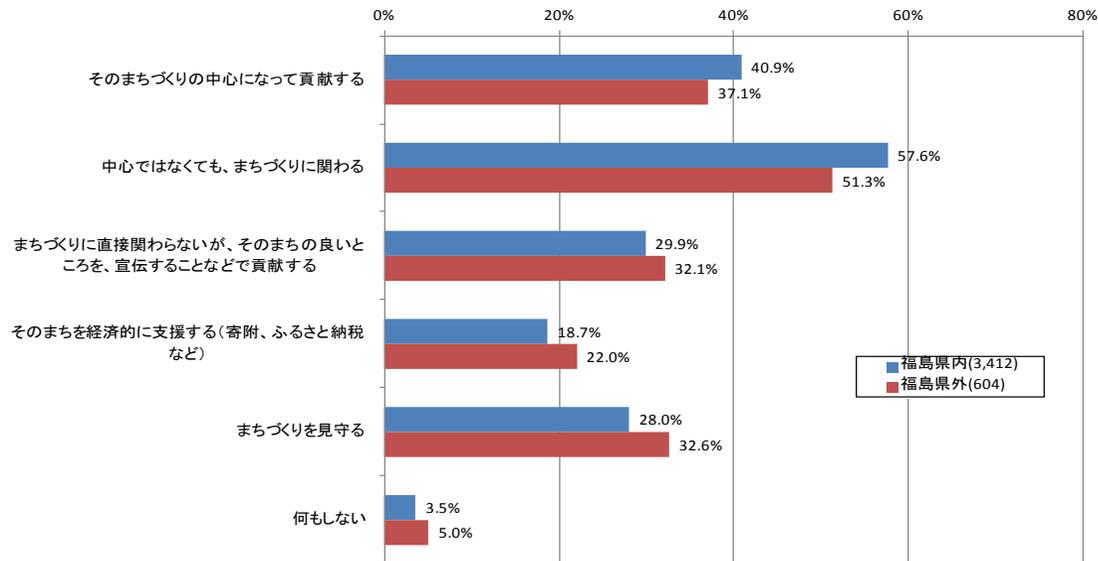


調査票2: 問4 「ふるさと」を、住みたい「まち」にしていくために、あなたは、どのようなことをしたいと思いますか。1～11のうち当てはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)
 調査票2: 問6 あなたの現在の学年をお答えください。あてはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

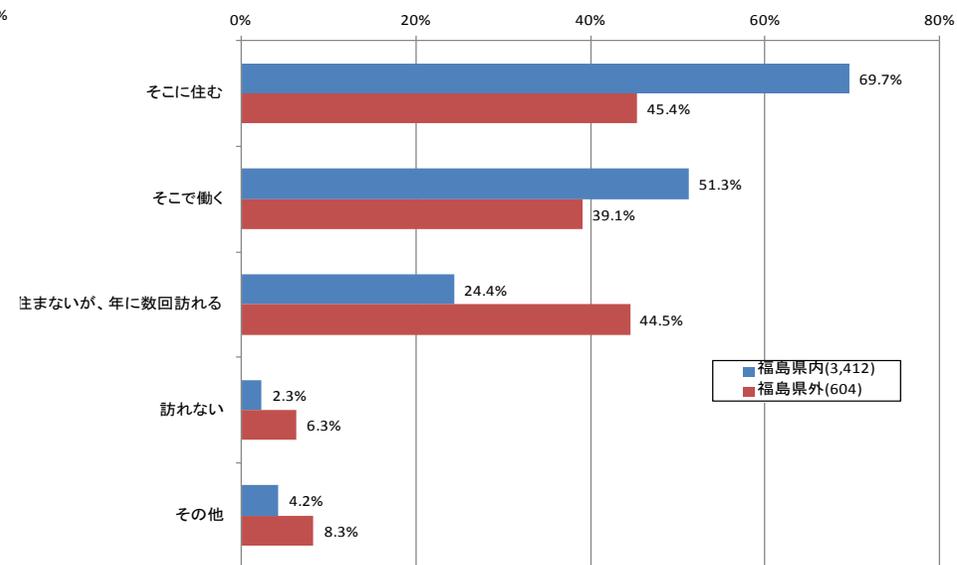
分析結果⑩

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、30~40年後に向けたまちづくりへの関わり方や市町村との関わり方を質問し現在の居住地別に比較した。
- 「中心ではなくても、まちづくりに関わる」の回答割合は、県内外いずれも50%を超えた。
- 「そこに住む」の回答割合は、県内の方が約70%と県外よりも高く、その差も大きかった。
- 一方、「住まないが、年に数回訪れる」の回答割合は、県外の方が約45%と県内よりも高く、その差も大きかった。

(高校1年生相当の年齢以上)
30~40年後に向けたまちづくりへの関わり方



(高校1年生相当の年齢以上)
30~40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方



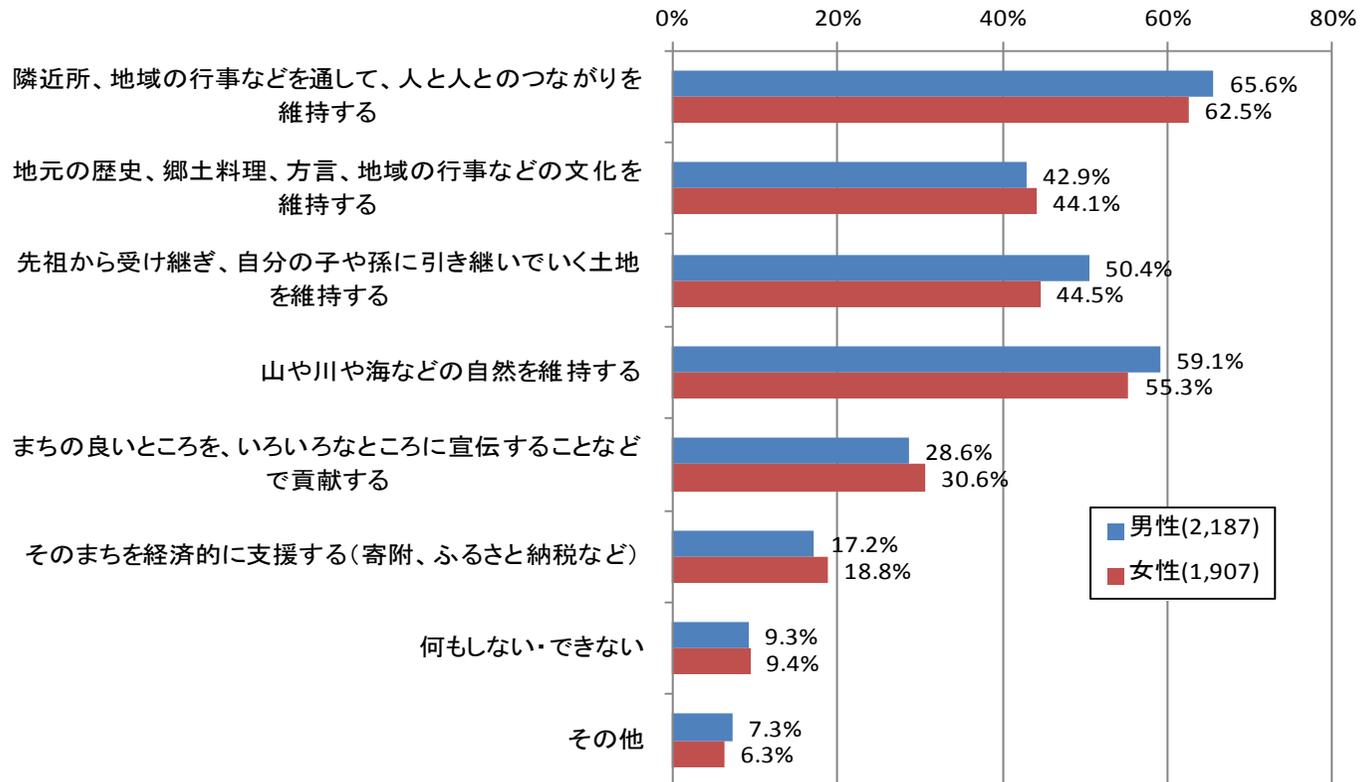
調査票1:問6 30~40年後のまちづくりに向けて、[問5でお答えいただいた世代]は、震災前にお住まいだった市町村にどのように関わるのがよいですか。以下1~11のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票1:問11 現在あなたがお住まいの地域について教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

分析結果⑰

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて今から取り組みたいことを質問し、回答を男女別で比較した。
- 男女問わず、ほぼ同様の傾向がみられた。
- 男女ともに、「隣近所、地域の行事などを通して、人と人とのつながりを維持する」や「山や川や海などの自然を維持する」の回答割合が50%以上であった。

(高校1年生相当の年齢以上)まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいこと

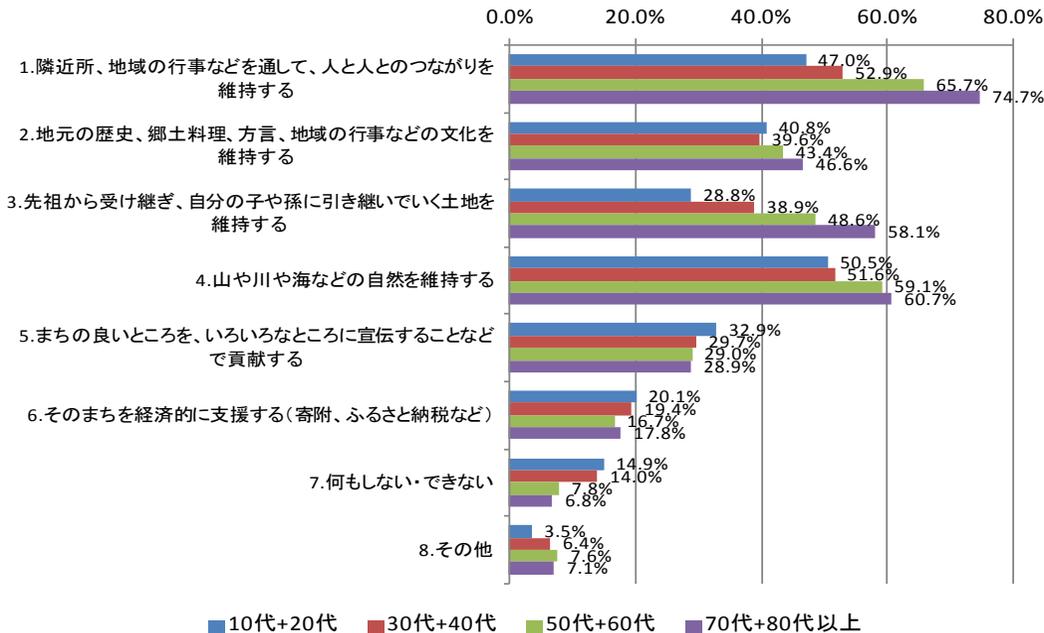


調査票1: 問7 まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて、あなたは今からどのようなことをしたいと思いますか。また、自分より年下の世代に今からどのようなことをしてほしいとおもいますか。以下1～8のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

分析結果⑩

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて何をしたい(してほしい)か質問し、回答者の世代別に比較した。
- 「4.山や川や海などの自然を維持する」を選んだ割合が、どの年代でも50%を超えていた。また、「1.隣近所、地域の行事などを通して、人と人との繋がりを維持する」や「2.地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を維持する」についても、各世代で約40%を超える結果となった。
- 「3.先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地を維持する」については70代+80代以上の回答が58.1%と高くなっている一方、10代+20代は28.8%であり、それほど高くなかった。また、「5.まちの良いところを、いろいろなところに宣伝することなどで貢献する」については、他の年代に比べて10代+20代が32.9%と最も高かった。

(高校1年生相当の年齢以上)まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいこと



集計表		問7の回答数	1.隣近所、地域の行事などを通して、人と人とのつながりを維持する	2.地元の歴史、郷土料理、方言、地域の行事などの文化を維持する	3.先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地を維持する	4.山や川や海などの自然を維持する	5.まちの良いところを、いろいろなところに宣伝することなどで貢献する	6.そのまちを経済的に支援する(寄附、ふるさと納税など)	7.何もしない・できない	8.その他
10代+20代	回答数	368	173	150	106	186	121	74	55	13
	割合	100.0%	47.0%	40.8%	28.8%	50.5%	32.9%	20.1%	14.9%	3.5%
30代+40代	回答数	792	419	314	308	409	235	154	111	51
	割合	100.0%	52.9%	39.6%	38.9%	51.6%	29.7%	19.4%	14.0%	6.4%
50代+60代	回答数	1,791	1,177	778	870	1,059	519	299	140	137
	割合	100.0%	65.7%	43.4%	48.6%	59.1%	29.0%	16.7%	7.8%	7.6%
70代+80代以上	回答数	1,160	866	541	674	704	335	206	79	82
	割合	100.0%	74.7%	46.6%	58.1%	60.7%	28.9%	17.8%	6.8%	7.1%

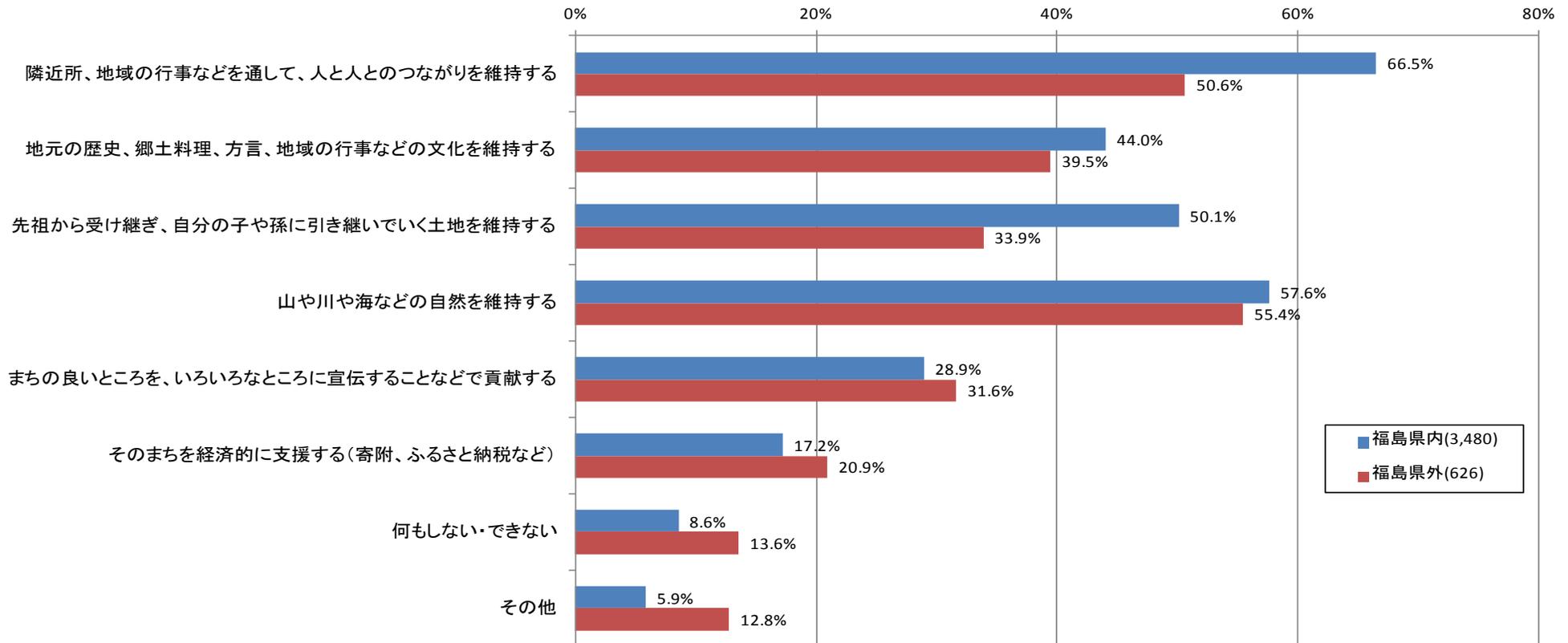
調査票1: 問7 まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて、あなたは今からどのようなことをしたいと思いますか。また、自分より年下の世代に今からどのようなことをしてほしいとおもいますか。以下1～8のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票1: 問9 あなたの現在の年齢を教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

分析結果⑬

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)において、まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいことを質問し、現在の居住地別に比較した。
- 県内・県外、また年代問わず「隣近所、地域の行事などを通して、人と人とのつながりを維持する」や「山や川や海などの自然を維持する」の回答割合は比較的高かった。
- 一方、「隣近所、地域の行事などを通して、人と人とのつながりを維持する」と「先祖から受け継ぎ、自分の子や孫に引き継いでいく土地を維持する」の回答割合は県内の方が県外よりも高く、その差も大きかった。
- 「まちの良いところを、いろいろなところに宣伝することなどで貢献する」や「そのまちを経済的に支援する(寄付、ふるさと納税など)」については、県外の回答割合が県内と比較して高かった。

(高校1年生相当の年齢以上)まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいこと



調査票1: 問7 まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて、あなたは今からどのようなことをしたいと思いますか。また、自分より年下の世代に今からどのようなことをしてほしいとおもいますか。以下1～8のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

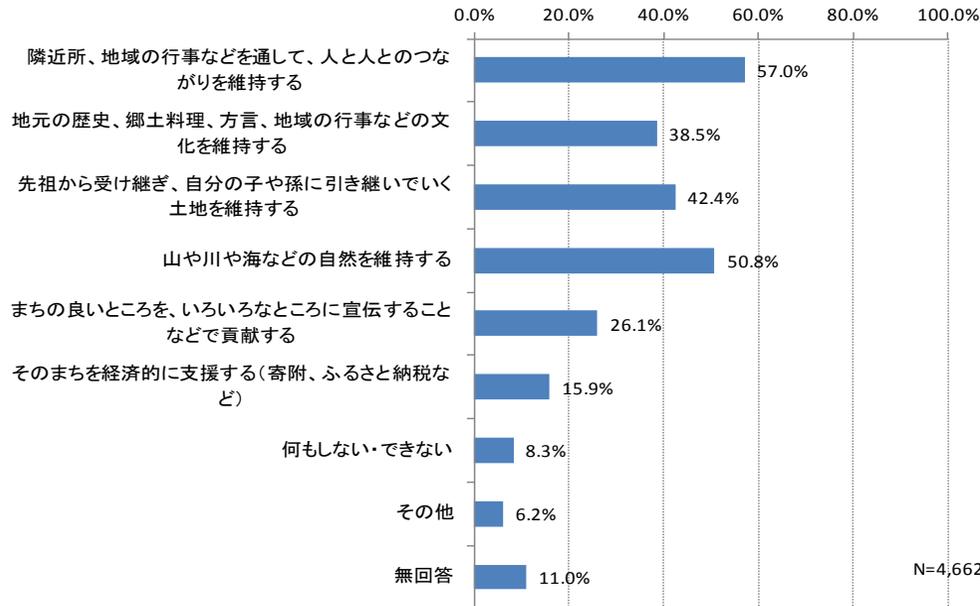
調査票1: 問11 現在あなたがお住まいの地域について教えてください。当てはまる番号を○で囲んでください。(○は一つ)

分析結果⑩

- 調査票1(高校1年生相当の年齢以上)及び調査票2(小学校4年生から中学3年生)において、まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいことや、30～40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方について質問した。
- 調査票1、2共に、「何もしない・できない」と回答した割合は低かった。

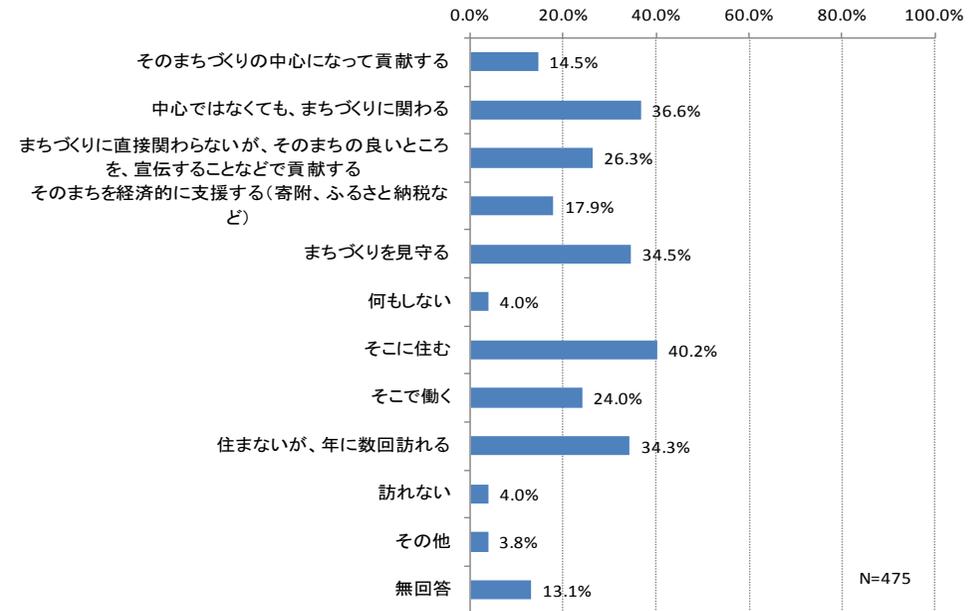
(高校1年生相当の年齢以上)

まちの復興・発展のために30～40年後に向けて今から取り組みたいこと



(小学校4年生から中学3年生)

30～40年後のまちづくりに向けた市町村との関わり方



調査票1:問7 まちが復興・発展するために、30～40年後に向けて、あなたは今からどのようなことをしたいと思いますか。また、自分より年下の世代に今からどのようなことをしてほしいとおもいますか。以下1～8のうち、当てはまると思う番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)

調査票2:問4「ふるさと」を、住みたい「まち」にしていくために、あなたは、どのようなことをしたいと思いますか。1～11のうち当てはまる番号を○で囲んでください。(○はいくつでも)